

第三者評価結果シート（児童養護施設）

種別	児童養護施設
----	--------

①第三者評価機関名

公益社団法人神奈川県介護福祉士会

②評価調査者研修修了番号

sk15075
sl16025
s24419
神機構-456

③施設名等

名称：	日本水上学園
施設長氏名：	松橋 秀之
定員：	90名
所在地(都道府県)：	神奈川県
所在地(市町村以下)：	
T E L：	
U R L：	
【施設の概要】	
開設年月日	1942/7/20
経営法人・設置主体（法人名等）：	社会福祉法人日本水上学園
職員数 常勤職員：	29名
職員数 非常勤職員：	1名
専門職員の名称（ア）	保育士
上記専門職員の人数：	4名
専門職員の名称（イ）	幼稚園教諭
上記専門職員の人数：	2名
専門職員の名称（ウ）	社会福祉士
上記専門職員の人数：	4名
専門職員の名称（エ）	社会福祉主事
上記専門職員の人数：	4名
専門職員の名称（オ）	教員
上記専門職員の人数：	7名
専門職員の名称（カ）	
上記専門職員の人数：	
施設設備の概要（ア）居室数：	年少児童寮1、男子年長児童寮4、女子年長児童寮4～居室総数56
施設設備の概要（イ）設備等：	伊藤記念館（食堂、面談室、プレイルーム、親子生活訓練室、
施設設備の概要（ウ）：	自立訓練室、実習生室）、園内保育室、会議室
施設設備の概要（エ）：	

④理念・基本方針

<p>1. 基本理念 キリスト教の精神に基づき、多様な福祉サービスがその利用者の意向を尊重して総合的に提供されるよう創意工夫することにより、利用者が、個人の尊厳を保持しつつ、心身ともに健やかに育成されるよう支援することを理念とする。</p> <p>2. 基本方針 児童の自立支援にあたり、「経済的自立」と「精神的自立」の二つを柱に支援の目標を定めています。 経済的自立 自分で働いて食べていくことのできる能力 精神的自立 他人を配慮しながら自分で考えて行動を決定し、その結果に責任をとることのできる能力 この二つの自立を児童に身につけてもらうための方法として、ひとりの職員が2～4名の子どもを責任をもって担当する個別担当制と、職員間相互で支援する複数指導体制による支援を平行して行っていますが、今後もこの体制を基にきめ細かな支援を行ってまいります。 また、児童の最善の利益を実現していくとともに、児童の権利を擁護していきます。</p>

⑤施設の特徴的な取組

<p>○毎年、1年間を振り返り、養育・支援の評価を行い、内容を「日本水上学園の児童養護」の冊子にまとめている。「日本水上学園の児童養護」は、21年間継続して発行し、関係機関に広く配布し、実践の内容を振り返るとともに、施設運営の透明性をはかっている。</p> <p>○「働ける大人になる」「貧困の連鎖を断ち切る」ことを目標に、子どもたちの学習支援を積極的に行っている。基礎学力の向上のため、小学生全員と中学生の一部を対象にして、公文式による学習指導を継続して行っている。また、中学生は学習ボランティアの指導を受けるなど、学力の向上を目指し、卒業後の社会的自立を目指した取り組みを行っている。</p>
--

⑥第三者評価の受審状況

評価実施期間（ア）契約日（開始日）	2016/5/25
評価実施期間（イ）評価結果確定日	2017/2/27
受審回数	1回
前回の受審時期	平成25年度

⑦総評

昭和17年設立の歴史のある施設で、現在、年少児童寮、男子年長児童寮、女子年長児童寮にて、80名弱の子どもたちが生活を送っている。施設の基本方針に、子どもたちの経済的自立と精神的自立を置き、子どもたちの自立を目指した養育・支援を展開している。子どもたちの支援にあたっては、個別担当制を取り、同じ職員が長く子どもと向き合うことができるようにしている。同時に複数指導体制により、担当職員を施設全体でフォローする仕組みを構築している。これまでの歴史のなかで築き上げてきた日本水上学園の取り組みを継承し、小規模グループケアを視野に入れ、さらなる向上を目指して、子どもたちの支援を展開している。

⑧第三者評価結果に対する施設のコメント

第三者評価が義務化され、今回は2回目の受審となりました。
 年度当初から、評価機関の選考、自己評価を行うなど準備をすすめてきました。
 また前回受審時に課題となった点について改善を図ってきました。
 今回の受審にあたっては、評価機関の方々にていねいに子どもたちや職員のヒアリングをしていただくとともに、職員との懇談の時間や夕食を共にするなど夜の支援の状況も観ていただくことができ感謝しています。
 前回と比べ、子どもたちへの養育・支援の項目をはじめ良い評価をいただくことができ、今後の支援の励みになると思っています。ただこの評価に安心することなく、さらに子どもたちの最善の利益のために、今後も努力していきたいと考えています。

⑥第三者評価結果（別紙）

（別紙）

第三者評価結果（児童養護施設）

共通評価基準（45項目）I 養育・支援の基本方針と組織

1 理念・基本方針

(1) 理念、基本方針が確立・周知されている。		第三者 評価結果
①	1 理念、基本方針が明文化され周知が図られている。	a
	<input type="checkbox"/> 理念、基本方針が文書(事業計画等の法人・施設内の文書や広報誌、パンフレット、ホームページ等)に記載されている。	○
	<input type="checkbox"/> 理念は、法人・施設が実施する養育・支援の内容や特性を踏まえた法人・施設の使命や目指す方向、考え方を読み取ることができる。	○
	<input type="checkbox"/> 基本方針は、法人の理念との整合性が確保されているとともに、職員の行動規範となるよう具体的な内容となっている。	○
	<input type="checkbox"/> 理念や基本方針は、会議や研修会での説明、会議での協議等をもって、職員への周知が図られている。	○
	<input type="checkbox"/> 理念や基本方針は、わかりやすく説明した資料を作成するなどの工夫がなされ、子どもや保護者等への周知が図られている。	○
	<input type="checkbox"/> 理念や基本方針の周知状況を確認し、継続的な取組を行っている。	○
【コメント】		
基本理念や基本方針は、広報誌やパンフレット、ホームページに記載し、周知を図っている。新人職員には、採用面接の場や採用前の2泊3日の体験実習の際に、説明を行っている。毎年、前年度までの取り組みをまとめた「日本水上学園の児童養護」を発行しており、4月からの検討の場で、新人職員を含めた全職員が基本理念や基本方針を再確認している。子どもたちには、全体会の話し合いの場や、日常生活場面で個別担当から内容を伝えている。保護者には「水上だより」にて、周知を図っている。		

1

2 経営状況の把握

(1) 経営環境の変化等に適切に対応している。		第三者 評価結果
①	2 施設経営をとりまく環境と経営状況が的確に把握・分析されている。	a
	<input type="checkbox"/> 社会福祉事業全体の動向について、具体的に把握し分析している。	○
	<input type="checkbox"/> 地域の各種福祉計画の策定動向と内容を把握し分析している。	○
	<input type="checkbox"/> 子どもの数・子ども像等、養育・支援のニーズ、潜在的に支援を必要とする子どもに関するデータを収集するなど、法人・施設が位置する地域での特徴・変化等の経営環境や課題を把握し分析している。	○
	<input type="checkbox"/> 定期的に養育・支援のコスト分析や施設入所を必要とする子どもの推移、利用率等の分析を行っている。	○
【コメント】		

2

施設長が県の施設長会や委員会、市の児童福祉部会に参加し、施設経営をとりまく動向を把握している。また、全国児童養護施設長研究協議会や、関東ブロック児童養護施設研究協議会、神奈川県児童養護施設協議会、区の社会福祉協議会などの研修に参加して、情報を入手している。内容は、月2回開催するフロアリーダー会議や職員会議の場で報告し、職員間での情報の共有を図っている。フロアリーダー会議は、第1・3月曜日に、職員会議は基本的に全職員が参加して、フロアリーダー会議と同じ週の水曜日に開催している。

②	3 経営課題を明確にし、具体的な取組を進めている。	a	3
	<input type="checkbox"/> 経営環境や養育・支援の内容、組織体制や設備の整備、職員体制、人材育成、財務状況等の現状分析にもとづき、具体的な課題や問題点を明らかにしている。	<input type="checkbox"/>	
	<input type="checkbox"/> 経営状況や改善すべき課題について、役員(理事・監事等)間での共有がなされている。	<input type="checkbox"/>	
	<input type="checkbox"/> 経営状況や改善すべき課題について、職員に周知している。	<input type="checkbox"/>	
	<input type="checkbox"/> 経営課題の解決・改善に向けて具体的な取組が進められている。	<input type="checkbox"/>	

【コメント】

施設の経営状況については、フロアリーダー会議などの場で事務担当が現状の説明を行い、職員間で情報を共有する仕組みを作っている。また、顧問税理士より2ヶ月に1回、内部監査を受けている。内部監査で課題が明らかになった時には、指摘を受けることになっているが、現時点では安定した運営がすすめられている。

3 事業計画の策定

(1) 中・長期的なビジョンと計画が明確にされている。	第三者 評価結果	4	
①	4 中・長期的なビジョンを明確にした計画が策定されている。		a
	<input type="checkbox"/> 中・長期計画において、理念や基本方針の実現に向けた目標(ビジョン)を明確にしている。		<input type="checkbox"/>
	<input type="checkbox"/> 中・長期計画は、経営課題や問題点の解決・改善に向けた具体的な内容になっている。		<input type="checkbox"/>
	<input type="checkbox"/> 中・長期計画は、数値目標や具体的な成果等を設定することなどにより、実施状況の評価を行える内容となっている。		<input type="checkbox"/>
	<input type="checkbox"/> 中・長期計画は必要に応じて見直しを行っている。	<input type="checkbox"/>	

【コメント】

社会福祉法人日本水上学園中・長期計画を策定している。中期的計画に、①定員を現在の90人から80人程度に減らす、②建物のメンテナンスを行う、③職員養成、職員の体制を充実していく、④地域等関係者の連携を図ることを定めている。小規模グループケアを視野に入れた定員数減は、家庭的養護推進計画にも示し、市からも承認を受けている。

②	5 中・長期計画を踏まえた単年度の計画が策定されている。	a	5
	<input type="checkbox"/> 単年度の計画には、中・長期計画の内容を反映した単年度における事業内容が具体的に示されている。	<input type="checkbox"/>	
	<input type="checkbox"/> 単年度の事業計画は、実行可能な具体的な内容となっている。	<input type="checkbox"/>	
	<input type="checkbox"/> 単年度の事業計画は、単なる「行事計画」になっていない。	<input type="checkbox"/>	
	<input type="checkbox"/> 単年度の事業計画は、数値目標や具体的な成果等を設定することなどにより、実施状況の評価を行える内容となっている。	<input type="checkbox"/>	

【コメント】

単年度の事業計画は、中・長期計画の内容を反映して作成している。事業計画は、基本理念や基本方針に沿って、児童養護施設における課題と現状を明確にし、養護内容の充実を図った具体的な計画としている。家庭復帰に向けた親子関係の修復を図ることを目的とした、児童相談所の家族再統合プログラム「けやき事業(ファミリールームの活用)」も、昨年度9ケース21回の利用があったことから、引き続き今年度の事業計画に盛り込んでいる。

(2) 事業計画が適切に策定されている。	6		
①		6 事業計画の策定と実施状況の把握や評価・見直しが組織的に行われ、職員が理解している。	a
		<input type="checkbox"/> 事業計画が、職員等の参画や意見の集約・反映のもとで策定されている。	<input type="checkbox"/>
		<input type="checkbox"/> 計画期間中において、事業計画の実施状況が、あらかじめ定められた時期、手順にもとづいて把握されている。	<input type="checkbox"/>
		<input type="checkbox"/> 事業計画が、あらかじめ定められた時期、手順にもとづいて評価されている。	<input type="checkbox"/>

<input type="checkbox"/> 評価の結果にもとづいて事業計画の見直しを行っている。	○
<input type="checkbox"/> 事業計画が、職員に周知(会議や研修会における説明等)されており、理解を促すための取組を行っている。	○

【コメント】

事業計画の作成にあたっては、職員会議で話し合いを行い、施設長が内容をまとめている。作成した事業計画は、3月の理事会にはかり承認を得ている。また、4月の職員会議の場で、全職員に内容を説明している。

7

② 7 事業計画は、子どもや保護者等に周知され、理解を促している。	a
<input type="checkbox"/> 事業計画の主な内容が、子どもや保護者等に周知(配布、掲示、説明等)されている。	○
<input type="checkbox"/> 事業計画の主な内容を子ども会や保護者会等で説明している。	○
<input type="checkbox"/> 事業計画の主な内容を分かりやすく説明した資料を作成するなどの方法によって、子どもや保護者等がより理解しやすい工夫を行っている。	○
<input type="checkbox"/> 事業計画については、子どもや保護者等の参加を促す観点から周知、説明の工夫を行っている。	○

【コメント】

事業計画の内容は、子どもたちとの話し合いの場や、日常のやり取りの中で説明している。また、保護者向けの「水上だより」を年2回発行し、年間の行事の内容などを伝えている。年1回保護者会を開催し、施設の行事の説明や取り組みを保護者に説明している。保護者会は、毎年11月に開催し、7～8人の保護者が参加している。保護者会では、保護者からも意見をもらい、今後の運営の参考にしている。

4 養育・支援の質の向上への組織的・計画的な取組

(1) 質の向上に向けた取組が組織的・計画的に行われている。	第三者評価結果
① 8 養育・支援の質の向上に向けた取組が組織的に行われ、機能している。	a
<input type="checkbox"/> 組織的にPDCAサイクルにもとづく養育・支援の質の向上に関する取組を実施している。	○
<input type="checkbox"/> 養育・支援の内容について組織的に評価(C:Check)を行う体制が整備されている。	○
<input type="checkbox"/> 定められた評価基準にもとづいて、年に1回以上自己評価を行うとともに、第三者評価等を定期的に受審している。	○
<input type="checkbox"/> 評価結果を分析・検討する場が、施設として位置づけられ実行されている。	○

8

【コメント】

毎年、第三者評価の自己評価に取り組んでいる。また毎年、年度が終了した段階で、1年間の振り返りとして、養育・支援の評価と反省を行い、内容を「日本水上学園の児童養護」の冊子にまとめている。「日本水上学園の児童養護」は、21年間継続して発行し、外部に向けた広報誌として位置付け、関係機関などに広く配布している。また、「日本水上学園の児童養護」を定期的に発行すると同時に、子どもたち個々の養育・支援の取り組みも冊子にまとめ、内部資料としている。

9

② 9 評価結果にもとづき施設として取り組むべき課題を明確にし、計画的な改善策を実施している。	a
<input type="checkbox"/> 評価結果を分析した結果やそれにもとづく課題が文書化されている。	○
<input type="checkbox"/> 職員間で課題の共有化が図られている。	○
<input type="checkbox"/> 評価結果から明確になった課題について、職員の参画のもとで改善策や改善計画を策定する仕組みがある。	○
<input type="checkbox"/> 評価結果にもとづく改善の取組を計画的に行っている。	○
<input type="checkbox"/> 改善策や改善の実施状況の評価を実施するとともに、必要に応じて改善計画の見直しを行っている。	○

【コメント】

第三者評価の取り組みや、市の一般指導監査などで指摘されたことについては、職員会議などで内容を共有し、改善すべき点については、担当者を決めて対応している。毎年、各寮ごとに目標を設定して、1年間の振り返りの際に考察を行い、次年度の目標を決めている。これまでの施設の歩みの中で築き上げてきた養育・支援のあり方を、新しい若手の職員にどのように伝えていくか、さらなる発展をどのようにすすめていくかを、今後の課題としている。

II 施設の運営管理

1 施設長の責任とリーダーシップ

(1) 施設長の責任が明確にされている。	第三者 評価結果	10
<p>① 10 施設長は、自らの役割と責任を職員に対して表明し理解を図っている。</p> <p><input type="checkbox"/>施設長は、自らの施設の経営・管理に関する方針と取組を明確にしている。</p> <p><input type="checkbox"/>施設長は、自らの役割と責任について、施設内の広報誌等に掲載し表明している。</p> <p><input type="checkbox"/>施設長は、自らの役割と責任を含む職務分掌等について、文書化するとともに、会議や研修において表明し周知が図られている。</p> <p><input type="checkbox"/>平常時のみならず、有事(災害、事故等)における施設長の役割と責任について、不在時の権限委任等を含め明確化されている。</p>	<p>a</p> <p>○</p> <p>○</p> <p>○</p> <p>○</p>	
<p>【コメント】</p> <p>広報誌「日本水上学園の児童養護」には、施設長自らも1年間を振り返り、今後の課題と目標を明確にしている。「日本水上学園の児童養護」には、子ども支援の組織図を示し、施設長の責任を明確にしている。トップダウンの管理的な運営は行わず、職員会議の場を施設の最高決定機関としている。</p>		
<p>② 11 遵守すべき法令等を正しく理解するための取組を行っている。</p> <p><input type="checkbox"/>施設長は、遵守すべき法令等を十分に理解しており、利害関係者(取引事業者、行政関係者等)との適正な関係を保持している。</p> <p><input type="checkbox"/>施設長は、法令遵守の観点での経営に関する研修や勉強会に参加している。</p> <p><input type="checkbox"/>施設長は、環境への配慮等も含む幅広い分野について遵守すべき法令等を把握し、取組を行っている。</p> <p><input type="checkbox"/>施設長は、職員に対して遵守すべき法令等を周知し、また遵守するための具体的な取組を行っている。</p>	<p>a</p> <p>○</p> <p>○</p> <p>○</p> <p>○</p>	11
<p>【コメント】</p> <p>社会的養護の施設長研修には、毎年、施設長が参加している。県の施設長会や委員会、市の児童福祉部会などに施設長が参加し、遵守すべき法令などを把握し、職員会議の場で、職員に内容を報告している。また、施設長が東洋英和女学院大学で、社会的養護関係施設の講義を行い、将来の施設職員の育成に向けた活動も行っている。</p>		
(2) 施設長のリーダーシップが発揮されている。		
<p>① 12 養育・支援の質の向上に意欲をもちその取組に指導力を発揮している。</p> <p><input type="checkbox"/>施設長は、養育・支援の質の現状について定期的、継続的に評価・分析を行っている。</p> <p><input type="checkbox"/>施設長は、養育・支援の質に関する課題を把握し、改善のための具体的な取組を明示して指導力を発揮している。</p> <p><input type="checkbox"/>施設長は、養育・支援の質の向上について施設内に具体的な体制を構築し、自らもその活動に積極的に参画している。</p> <p><input type="checkbox"/>施設長は、養育・支援の質の向上について、職員の意見を反映するための具体的な取組を行っている。</p> <p><input type="checkbox"/>施設長は、養育・支援の質の向上について、職員の教育・研修の充実を図っている。</p> <p><input type="checkbox"/>施設長は、職員の模範となるように、自己研鑽に励み、専門性の向上に努めている。</p>	<p>a</p> <p>○</p> <p>○</p> <p>○</p> <p>○</p> <p>○</p> <p>○</p>	12
<p>【コメント】</p> <p>施設長も施設の行事に参加し、管理的な体制にならないよう留意している。また、職員会議や職員面談の場において職員の意見を集約している。外部研修については、研修案内を職員会議でアナウンスし、各寮で参加者を誰にするか検討している。上からの指示ではなく、職員が話し合っって参加者を決めている。外部研修には、職員が積極的に参加している。</p>		
<p>② 13 経営の改善や業務の実行性を高める取組に指導力を発揮している。</p> <p><input type="checkbox"/>施設長は、経営の改善や業務の実効性の向上に向けて、人事、労務、財務等を踏まえ分析を行っている。</p> <p><input type="checkbox"/>施設長は、施設(法人)の理念や基本方針の実現に向けて、人員配置、職員の働きやすい環境整備等、具体的に取り組んでいる。</p> <p><input type="checkbox"/>施設長は、経営の改善や業務の実効性の向上に向けて、施設内に同様の意識を形成するための取組を行っている。</p> <p><input type="checkbox"/>施設長は、経営の改善や業務の実効性を高めるために施設内に具体的な体制を構築し、自らもその活動に積極的に参画している。</p>	<p>a</p> <p>○</p> <p>○</p> <p>○</p> <p>○</p>	13
<p>【コメント】</p>		

職員配置については、各寮9人の体制を取っている。職員が継続して勤務できるよう、産休や育休の体制を整え、産休や育休明けの職員には、断続勤務ではなく、年少児童寮などに配置し、職員が引き続き勤務を継続できるよう努めている。現在、心理職員が欠員となっているが、児童精神科医や児童相談所の臨床心理士の再判定などを活用しフォローしている。施設内の環境整備については、施設の規模が大きいので、施設内の照明を順次LEDに変え省エネに気を付け、ユニットの室温も冬は24℃、夏は28℃に設定し、こまめに調整している。食事でもできるだけ残菜が出ないように、夜食やおやつに活用し、ゴミの減量に配慮している。

2 福祉人材の確保・育成

(1) 福祉人材の確保・育成計画、人事管理の体制が整備されている。		第三者 評価結果	
①	14 必要な福祉人材の確保・定着等に関する具体的な計画が確立し、取組が実施されている。	a	14
	<input type="checkbox"/> 必要な福祉人材や人員体制に関する基本的な考え方や、福祉人材の確保と育成に関する方針が確立している。	○	
	<input type="checkbox"/> 養育・支援に関わる専門職(有資格の職員)の配置等、必要な福祉人材や人員体制について具体的な計画がある。	○	
	<input type="checkbox"/> 計画にもとづいた福祉人材の確保や育成が実施されている。	○	
	<input type="checkbox"/> 法人・施設として、効果的な福祉人材確保(採用活動等)を実施している。	○	
	<input type="checkbox"/> 各種加算職員の配置に積極的に取り組み、人員体制の充実に努めている。	○	
【コメント】			
今後、子どもの定員を90人から80人にしていく予定である。それに対する人事体制を計画している。神奈川県社会福祉協議会が主催する「福祉のしごとフェア」では、児童養護施設のDVDを作成し、社会的養護関係施設の内容を紹介するとともに、人材確保に努めている。職員の平均勤続年数も長く、ベテラン・中堅・新任のバランスに配慮した配置をしている。職員が65歳まで働き続けることができるよう規則を変更し、60歳以上の職員はスーパーバイザー的な役割を担っている。			
②	15 総合的な人事管理が行われている。	a	15
	<input type="checkbox"/> 法人・施設の理念・基本方針にもとづき「期待する職員像等」を明確にしている。	○	
	<input type="checkbox"/> 人事基準(採用、配置、異動、昇進・昇格等に関する基準)が明確に定められ、職員等に周知されている。	○	
	<input type="checkbox"/> 一定の人事基準にもとづき、職員の専門性や職務遂行能力、職務に関する成果や貢献度等を評価している。	○	
	<input type="checkbox"/> 職員処遇の水準について、処遇改善の必要性等を評価・分析するための取組を行っている。	○	
	<input type="checkbox"/> 把握した職員の意向・意見や評価・分析等にもとづき、改善策を検討・実施している。	○	
	<input type="checkbox"/> 職員が、自ら将来の姿を描くことができるような総合的な仕組みづくりができてい	○	
【コメント】			
施設長と職員の面談は、職員からの提案を受けて始まり、年1回秋頃から行い、職員の目標や課題、意見を確認している。面談では、退職の意向確認も行い、職員からはプライベートな部分の相談もある。月1回開催する学習会では、外部研修の報告や施設間交流研修の報告などを行っている。外部研修の参加は、8月、12月は無理なこともあるが、より多くの職員が参加できるように配慮している。			
(2) 職員の就業状況に配慮がなされている。			
①	16 職員の就業状況や意向を把握し、働きやすい職場づくりに取り組んでいる。	a	16
	<input type="checkbox"/> 職員の就業状況や意向の把握等にもとづく労務管理に関する責任体制を明確にしている。	○	
	<input type="checkbox"/> 職員の有給休暇の取得状況や時間外労働のデータを定期的に確認するなど、職員の就業状況を把握している。	○	
	<input type="checkbox"/> 職員の心身の健康と安全の確保に努め、その内容を職員に周知している。	○	
	<input type="checkbox"/> 定期的に職員との個別面談の機会を設ける。職員の悩み相談窓口を施設内に設置するなど、職員が相談しやすいような施設内の工夫をしている。	○	
	<input type="checkbox"/> 職員の希望の聴取等をもとに、総合的な福利厚生を実施している。	○	
	<input type="checkbox"/> ワーク・ライフ・バランスに配慮した取組を行っている。	○	
	<input type="checkbox"/> 改善策については、人材や人員体制に関する具体的な計画に反映し実行している。	○	
	<input type="checkbox"/> 人材の確保、定着の観点から、施設の魅力を高める取組や働きやすい職場づくりに関する取組を行っている。	○	
【コメント】			

各寮で調整し、職員が有給休暇を積極的に取得できるように努めている。勤務表は、職員会議の後の寮会議で皆が話し合い作成している。勤続年数が10年、20年の節目には、それぞれ1週間、2週間の永年勤続特別休暇が取れるようにしている。また、職員の親睦会として「厚生会」があり、職員の歓送迎会などを実施する他、職員旅行も2班に分かれ行っている。

(3) 職員の質の向上に向けた体制が確立されている。

①	17 職員一人ひとりの育成に向けた取組を行っている。	a	17
	<input type="checkbox"/> 施設として「期待する職員像」を明確にし、職員一人ひとりの目標管理のための仕組みが構築されている。	<input type="checkbox"/>	
	<input type="checkbox"/> 個別面接を行う等施設の目標や方針を徹底し、コミュニケーションのもとで職員一人ひとりの目標が設定されている。	<input type="checkbox"/>	
	<input type="checkbox"/> 職員一人ひとりの目標の設定は、目標項目、目標水準、目標期限が明確にされた適切なものとなっている。	<input type="checkbox"/>	
	<input type="checkbox"/> 職員一人ひとりが設定した目標について、中間面接を行うなど、適切に進捗状況の確認が行われている。	<input type="checkbox"/>	
	<input type="checkbox"/> 職員一人ひとりが設定した目標について、年度当初・年度末(期末)面接を行うなど、目標達成度の確認を行っている。	<input type="checkbox"/>	

【コメント】

年1回の施設長と職員の面談では、職員の目標と課題などを聴き取り、今後の働き方について確認している。各寮では、リーダーが職員と話し合いを行い、その年の目標を確認している。職員同士が、密に話し合いを行うことを大切にしている。

②	18 職員の教育・研修に関する基本方針や計画が策定され、教育・研修が実施されている。	a	18
	<input type="checkbox"/> 施設が目指す養育・支援を実施するために、基本方針や計画の中に、「期待する職員像」を明示している。	<input type="checkbox"/>	
	<input type="checkbox"/> 現在実施している養育・支援の内容や目標を踏まえて、基本方針や計画の中に、施設が職員に必要とされる専門技術や専門資格を明示している。	<input type="checkbox"/>	
	<input type="checkbox"/> 策定された教育・研修計画にもとづき、教育・研修が実施されている。	<input type="checkbox"/>	
	<input type="checkbox"/> 定期的に計画の評価と見直しを行っている。	<input type="checkbox"/>	
	<input type="checkbox"/> 定期的に研修内容やカリキュラムの評価と見直しを行っている。	<input type="checkbox"/>	

【コメント】

年度初めに、職員の研修計画を策定している。施設間交流研修に積極的に参加する他、職員が宿泊研修に年1回は参加できるようにしている。また、同じ区内の聖母愛児園、高風子供園と、年2回、合同の研修会を開催している。園内研修も年2回、外部講師を招いて開催している。

③	19 職員一人ひとりの教育・研修の機会が確保されている。	a	19
	<input type="checkbox"/> 個別の職員の知識、技術水準、専門資格の取得状況等を把握している。	<input type="checkbox"/>	
	<input type="checkbox"/> 新任職員をはじめ職員の経験や習熟度に配慮した個別的なOJTが適切に行われている。	<input type="checkbox"/>	
	<input type="checkbox"/> 階層別研修、職種別研修、テーマ別研修等の機会を確保し、職員の職務や必要とする知識・技術水準に応じた教育・研修を実施している。	<input type="checkbox"/>	
	<input type="checkbox"/> 外部研修に関する情報提供を適切に行うとともに、参加を勧奨している。	<input type="checkbox"/>	
	<input type="checkbox"/> 職員一人ひとりが、教育・研修の場に参加できるよう配慮している。	<input type="checkbox"/>	

【コメント】

毎月、学習会を開催し、外部研修や施設間交流研修の報告を行い、職員が意見交換できる場を設けている。新人・中堅・ベテランの職員が外部研修に積極的に参加している。神児研内の施設間交流研修の派遣や受け入れについては、昨年度、県内外の施設に6名の職員を派遣し、5施設から職員の受け入れを行っている。

(4) 実習生等の養育・支援に関わる専門職の研修・育成が適切に行われている。

①	20 実習生等の養育・支援に関わる専門職の教育・育成について体制を整備し、積極的な取組をしている。	a	20
	<input type="checkbox"/> 実習生等の養育・支援に関わる専門職の教育・育成に関する基本姿勢を明文化している。	<input type="checkbox"/>	
	<input type="checkbox"/> 実習生等の養育・支援の専門職の教育・育成についてのマニュアルが整備されている。	<input type="checkbox"/>	

<input type="checkbox"/> 専門職種の特性に配慮したプログラムを用意している。	○
<input type="checkbox"/> 指導者に対する研修を実施している。	○
<input type="checkbox"/> 実習生については、学校側と、実習内容について連携してプログラムを整備するとともに、実習期間中においても継続的な連携を維持していくための工夫を行っている。	○

【コメント】

現在、東洋英和女学院大学、明治学院大学、社会事業大学、立教大学の4校の実習生の受け入れを行っている。実習生は、子どもたちと関わるだけでなく、施設長や職員との話し合いの場を設け、また、職員も学ぶ機会としている。実習の開始前には、事前にオリエンテーションを行い、実習に際して注意すべき点や施設の方針を説明している。実習生の受け入れは、各校1名とし、きめ細やかな対応ができるようにしている。

3 運営の透明性の確保

(1) 運営の透明性を確保するための取組が行われている。	第三者 評価結果	
① 21 運営の透明性を確保するための情報公開が行われている。	a	21
<input type="checkbox"/> ホームページ等の活用により、法人・施設の理念や基本方針、養育・支援の内容、事業計画、事業報告、予算、決算情報が適切に公開されている。		
<input type="checkbox"/> 施設における地域の福祉向上のための取組の実施状況、第三者評価の受審、苦情・相談の体制や内容について公表している。	○	
<input type="checkbox"/> 第三者評価の受審結果、苦情・相談の体制や内容にもとづく改善・対応の状況について公表している。	○	
<input type="checkbox"/> 法人・施設の理念、基本方針やビジョン等について、社会・地域に対して明示・説明し、法人・施設の有存在意義や役割を明確にするように努めている。	○	
<input type="checkbox"/> 地域へ向けて、理念や基本方針、施設で行っている活動等を説明した印刷物や広報誌等を配布している。	○	

【コメント】

基本理念や基本方針、財務諸表は、ホームページで内容を公表する他、いつでも内容を閲覧できるようにしている。ホームページには、事業報告や事業計画も掲載する予定である。毎年、養育・支援の実践や考えをまとめた「日本水上学園の児童養護」を作成し、他施設や児童相談所、大学などの関係機関に配布している。「日本水上学園の児童養護」は、700部印刷している。

② 22 公正かつ透明性の高い適正な経営・運営のための取組が行われている。	a	22
<input type="checkbox"/> 施設における事務、経理、取引等に関するルールが明確にされ、職員等に周知している。	○	
<input type="checkbox"/> 施設における事務、経理、取引等に関する職務分掌と権限・責任が明確にされ、職員等に周知している。	○	
<input type="checkbox"/> 施設における事務、経理、取引等について、必要に応じて外部の専門家に相談し、助言を得ている。	○	
<input type="checkbox"/> 施設における事務、経理、取引等について内部監査を実施するなど、定期的に確認されている。	○	
<input type="checkbox"/> 外部監査の活用等により、事業、財務に関する外部の専門家によるチェックを行っている。	○	
<input type="checkbox"/> 外部監査の結果や公認会計士等による指導や指摘事項にもとづいて、経営改善を実施している。	○	

【コメント】

物品の購入については、職員一人で決めないよう、職員相互牽引体制をとっている。各寮の日用品の購入は、職員が話し合いで決め、購入品は事務や施設長に報告している。経理については、2か月に1回、顧問税理士による内部監査を受け、透明性を確保している。

4 地域との交流、地域貢献

(1) 地域との関係が適切に確保されている。	第三者 評価結果	
① 23 子どもと地域との交流を広げるための取組を行っている。	a	23
<input type="checkbox"/> 地域との関わり方について基本的な考え方を文書化している。		
<input type="checkbox"/> 子どもの個別の状況に配慮しつつ地域の行事や活動に参加する際、必要があれば職員やボランティアが支援を行う体制が整っている。	○	
<input type="checkbox"/> 施設や子どもへの理解を得るために、地域の人々に向けた日常的なコミュニケーションを心がけている。	○	
<input type="checkbox"/> 子どもの買い物や通院等日常的な活動についても、定型的でなく個々の子どものニーズに応じて、地域における社会資源を利用するよう推奨している。	○	

<input type="checkbox"/> 学校の友人等が施設へ遊びに来やすい環境づくりを行っている。	○
【コメント】	
地域には子ども会がないが、町内会主催のバザーは職員も手伝い、地域との交流を図っている。地域の野球クラブには4人の子どもが入部しており、子どもたちも活動の様子を見てもらいたいので、子どもの担当職員が練習などの手伝いを行っている。幼稚園や小学校、中学校は、職員がPTA活動に参加している。また、小学校の安全パトロールを、週1回行っている。花の日や収穫感謝の日には、日頃お世話になっている病院や交番、支援団体などに、花や果物を届けている。	
② 24 ボランティア等の受入れに対する基本姿勢を明確にし体制を確立している。	a
<input type="checkbox"/> ボランティア受入れに関する基本姿勢を明文化している。	○
<input type="checkbox"/> 地域の学校教育等への協力について基本姿勢を明文化している。	○
<input type="checkbox"/> ボランティア受入れについて、登録手続、ボランティアの配置、事前説明等に関する項目が記載されたマニュアルを整備している	○
<input type="checkbox"/> ボランティアに対して子どもとの交流を図る視点等で必要な研修、支援を行っている。	○
<input type="checkbox"/> 学校教育への協力を行っている。	○
【コメント】	
現在、空手のボランティアや、美容師によるカットボランティア、パラ会によるパラの手入れ、学習ボランティアが活動している。学習ボランティアは社会福祉協議会を通じて週1回、中学生を対象に学習指導を行っている。学習ボランティアとは年2回、担当職員との話し合いの機会を作り、子どもの課題と今後の方針を確認している。美容師のボランティアには、七五三の着付けもお願いしたことがある。空手のボランティアは月1回、近所の学校の体育館を借りて指導を受けている。また、市立学校教員「企業等リーダーシップ開発研修派遣」に協力し、教員の体験実習の受け入れを行っている。	
(2) 関係機関との連携が確保されている。	
① 25 施設として必要な社会資源を明確にし、関係機関等との連携が適切に行われている。	a
<input type="checkbox"/> 当該地域の関係機関・団体について、個々の子どもの状況に対応できる社会資源を明示したリストや資料を作成している。	○
<input type="checkbox"/> 職員会議で説明するなど、職員間で情報の共有化が図られている。	○
<input type="checkbox"/> 関係機関・団体と定期的な連絡会等を行っている。	○
<input type="checkbox"/> 地域の関係機関・団体の共通の問題に対して、解決に向けて協働して具体的な取組を行っている。	○
<input type="checkbox"/> 地域に適当な関係機関・団体がない場合には、子どものアフターケア等を含め、地域でのネットワーク化に取り組んでいる。	○
【コメント】	
子どもたちが通っている幼稚園や小学校、中学校とは、年1回、連絡会を開催し、情報交換や情報の共有を行っている。児童相談所とも、年1回、連絡会を開催している。必要に応じて、地元の消防署や警察署と情報や課題を共有し、連携を図っている。市が立ち上げたアフターケア勉強会には、自立支援コーディネーターが参加している。	
(3) 地域の福祉向上のための取組を行っている。	
① 26 施設が有する機能を地域に還元している。	b
<input type="checkbox"/> 施設のスペースを活用して地域住民との交流を意図した取組を行っている。	
<input type="checkbox"/> 施設の専門性や特性を活かし、地域住民の生活に役立つ講演会や研修会等を開催して、地域へ参加を呼びかけている。	
<input type="checkbox"/> 施設の専門性や特性を活かした相談支援事業、支援を必要とする地域住民のためのサークル活動等、地域ニーズに応じ住民が自由に参加できる多様な支援活動を行っている。	
<input type="checkbox"/> 災害時の地域における役割等について確認がなされている。	○
<input type="checkbox"/> 多様な機関等と連携して、社会福祉分野に限らず地域の活性化やまちづくりに貢献している。	○
【コメント】	
町内会主催の防災まちあるきに参加し、施設の一角を活用して意見交換を行っている。施設の会議室は、地域交流スペースとして開放しているが、町内にも会議室があることから、利用希望は少ない。施設は地域の特別避難場所に指定されており、AEDも完備している。地域の幼稚園の運動会に施設の大型車を貸し出したり、地域の行事に施設の大型車を出して物品の運搬を手伝ったりしている。	

24

25

26

②	27 地域の福祉ニーズにもとづく公益的な事業・活動が行われている。	b
	<input type="checkbox"/> 施設の機能を地域に還元することなどを通じて、地域の福祉ニーズの把握に努めている。	
	<input type="checkbox"/> 民生委員・児童委員等と定期的な会議を開催するなどによって、具体的な福祉ニーズの把握に努めている。	
	<input type="checkbox"/> 地域住民に対する相談事業を実施することなどを通じて、多様な相談に応じる機能を有している。	○
	<input type="checkbox"/> 関係機関・団体との連携にもとづき、具体的な福祉ニーズの把握に努めている。	○
	<input type="checkbox"/> 把握した福祉ニーズにもとづいて、法で定められた社会福祉事業にとどまらない地域貢献に関わる事業・活動を実施している。	○
	<input type="checkbox"/> 把握した福祉ニーズにもとづいた具体的な事業・活動を、計画等で明示している。	

27

【コメント】

民生委員・児童委員などの見学を積極的に受け入れ、意見交換を行うとともに、施設長が中心になり、現在の社会的養護関係施設の課題と今後の展望についてレクチャーしている。地域住民に対する子育て相談も、施設長の役割として捉え、相談の希望に対応している。また、土木事務所の呼び掛けで、公園愛護会を結成し、見守り・公園美化活動に協力している。活動の内容は、今後具体的に考えていく予定である。

Ⅲ 適切な養育・支援の実施
1 子ども本位の養育・支援

(1) 子どもを尊重する姿勢が明示されている。	第三者 評価結果	
①	28 子どもを尊重した養育・支援の実施について共通の理解をもつための取組を行っている。	a
	<input type="checkbox"/> 理念や基本方針に、子どもを尊重した養育・支援の実施について明示し、職員が理解し実践するための取組を行っている。	○
	<input type="checkbox"/> 子どもを尊重した養育・支援の実施に関する「倫理綱領」や規程等を策定し、職員が理解し実践するための取組を行っている。	○
	<input type="checkbox"/> 子どもを尊重した養育・支援の実施に関する基本姿勢が、個々の養育・支援の標準的な実施方法等に反映されている。	○
	<input type="checkbox"/> 子どもの尊重や基本的人権への配慮について、施設で勉強会・研修を実施している。	○
	<input type="checkbox"/> 子どもの尊重や基本的人権への配慮について、定期的に状況の把握・評価等を行い、必要な対応を図っている。	○

28

【コメント】

「働ける大人」を目指すことを基本姿勢に置き、職員会議の場で、施設長が「全国児童養護施設協議会倫理綱領」の説明を行っている。職員間の共通理解のため、日頃よりベテラン職員から様々な実践の話の聞いたり、月2回開催する職員会議のなかで、職員同士が意見交換を活発に行っている。各寮では、フロアリーダーがスーパーバイザーの役割を担い、職員と子どもとの遣り取りの場面で、気付いたことを職員に伝えている。年1回、施設長が子どもと面接し、子どもたちの状況を把握している。

②	29 子どものプライバシー保護等の権利擁護に配慮した養育・支援の実施が行われている。	a
	<input type="checkbox"/> 子どものプライバシー保護について、規程・マニュアル等が整備され、職員の理解が図られている。	○
	<input type="checkbox"/> 子どもの虐待防止等の権利擁護について、規程・マニュアル等が整備され、職員の理解が図られている。	○
	<input type="checkbox"/> 子どものプライバシー保護と虐待防止に関する知識、社会福祉事業に携わる者としての姿勢・責務、子どものプライバシー保護や権利擁護に関する規程・マニュアル等について、職員に研修を実施している。	○
	<input type="checkbox"/> 一人ひとりの子どもにとって、生活の場にふさわしい快適な環境を提供し、子どものプライバシーを守るよう設備等の工夫を行っている。	○
	<input type="checkbox"/> 子どもや保護者等にプライバシー保護と権利擁護に関する取組を周知している。	○
	<input type="checkbox"/> 規程・マニュアル等にもとづいた養育・支援が実施されている。	○
	<input type="checkbox"/> 不適切な事案が発生した場合の対応方法等が明示されている。	○

29

【コメント】
 子どもたちのプライバシーの保護については、特に貼り紙などはしていない。「プライバシーを守ること」は、日常の子どもたちとの関わりの中で、話をしていく環境を整えている。職員が権利擁護に関する研修会に参加し、子どもたちとの関わりの中で、不適切な関わりにつながる事が起きた場合には、報告することを徹底している。学識経験者や弁護士などで構成されている「子どもの権利擁護委員会」を置き、また、児童相談所への報告など、子どもたちに対する権利擁護の仕組みを構築している。

(2) 養育・支援の実施に関する説明と同意（自己決定）が適切に行われている。

①	30 子どもや保護者等に対して養育・支援の利用に必要な情報を積極的に提供している。	a
	<input type="checkbox"/> 理念や基本方針、養育・支援の内容や施設の特性等を紹介した資料を準備している。	○
	<input type="checkbox"/> 施設を紹介する資料は、言葉遣いや写真・図・絵の使用等で誰にでもわかるような内容になっている。	○
	<input type="checkbox"/> 施設に入所予定の子どもや保護者等については、個別に丁寧な説明を実施している。	○
	<input type="checkbox"/> 見学等の希望に対応している。	○
	<input type="checkbox"/> 子どもや保護者等に対する情報提供について、適宜見直しを実施している。	○

30

【コメント】
 子どもや保護者などへは、入所時に「入園のしおり」をもとに説明を行っているが、入所した後の情報提供が重要であると認識している。特に高校生は、「友だちの家に泊まりたい」「バイクに乗りたい」「携帯電話を持ちたい」などの希望が多くあり、それらの希望に対して、可能なこと不可能なことの説明を行い、情報を提供している。担当者が子どもにとって必要と思われる場面で随時、提供している。

②

31	養育・支援の開始・過程において子どもや保護者等にわかりやすく説明している。	a
	<input type="checkbox"/> 養育・支援の開始・過程における養育・支援の内容に関する説明と同意にあたっては、子どもや保護者等の自己決定を尊重している。	○
	<input type="checkbox"/> 養育・支援の開始・過程においては、子どもや保護者等がわかりやすいように工夫した資料を用いて説明している。	○
	<input type="checkbox"/> 説明にあたっては、子どもや保護者等が理解しやすいような工夫や配慮を行っている。	○
	<input type="checkbox"/> 養育・支援の開始・過程においては、子どもや保護者等の同意を得たうえでその内容を書面で残している。	○
	<input type="checkbox"/> 意思決定が困難な子どもや保護者等への配慮についてルール化され、適正な説明、運用が図られている。	○

31

【コメント】
 自立支援計画書は、半年に1回定期的に見直しを行っている。家庭への引き取りなど、保護者の意向も反映するようにしている。保護者は複雑な背景を抱えているため、児童相談所と連携して対応している。予防接種など、保護者の同意が必要なものは、「入園のしおり」を説明する際に同意を取っているが、保護者の同意が取れない子どもが増えている状況がある。

③

32	措置変更や地域・家庭への移行等にあたり養育・支援の継続性に配慮した対応を行っている。	a
	<input type="checkbox"/> 養育・支援の内容の変更にあたり、従前の内容から著しい変更や不利益が生じないように配慮されている。	○
	<input type="checkbox"/> 他の施設や地域・家庭への移行にあたり、養育・支援の継続性に配慮した手順と引継ぎ文書を定めている。	○
	<input type="checkbox"/> 施設を退所した後も、施設として子どもや保護者等が相談できるように担当者や窓口を設置している。	○
	<input type="checkbox"/> 施設を退所した時に、子どもや保護者等に対し、その後の相談方法や担当者について説明を行い、その内容を記載した文書を渡している。	○

32

【コメント】
 措置変更については、各機関と連携をとり、カンファレンスを開催して結論を出している。措置変更が決定した場合には、担当職員が新しい生活の場へ赴き、やり取りを行っている。施設退所後に、仕事を辞めてしまい住まいがなくなってしまった人や、一人暮らしの練習が必要な人のために、期間を決めて、職員寮を貸し出す支援を行っている。高校卒業後に進学した子どもに対しても、卒業するまで職員寮を貸し出し、支援している。

(3) 子どもの満足の向上に努めている。

①	33 子どもの満足の向上を目的とする仕組みを整備し、取組を行っている。	a
---	-------------------------------------	---

第三者
評価結果

33

<input type="checkbox"/>	子どもの満足に関する調査が定期的に行われている。	○
<input type="checkbox"/>	子どものへの個別の相談面接や聴取等が、子どもの満足を把握する目的で定期的に行われている。	○
<input type="checkbox"/>	職員等が、子どもの満足を把握する目的で、子ども会等に出席している。	○
<input type="checkbox"/>	子どもの満足に関する調査の担当者等の設置や、把握した結果を分析・検討するために、子ども参画のもとで検討会議の設置等が行われている。	○
<input type="checkbox"/>	分析・検討の結果にもとづいて具体的な改善を行っている。	○

【コメント】

担当者の日常の関わりや子どもとの外出、各寮の話し合い、学年ごとの話し合いなどで、子どもの意向を確認している。年1回の施設長との面接や、年2回実施している食事アンケートでも、子どもの満足を確認している。食事のアンケートでは、子どもからお弁当にミニトマトを入れると、温められないなどの意見があがっている。子どもたちの満足不満足は、食事や睡眠、学校のことが中心になるが、子どもたちに真剣に向き合う姿勢を大切にしている。

(4) 子どもが意見等を述べやすい体制が確保されている。

①	34 苦情解決の仕組みが確立しており、周知・機能している。	a	34
<input type="checkbox"/>	苦情解決の体制(苦情解決責任者の設置、苦情受付担当者の設置、第三者委員の設置)が整備されている。	○	
<input type="checkbox"/>	苦情解決の仕組みをわかりやすく説明した掲示物が掲示され、資料を子どもや保護者等に配布し説明している。	○	
<input type="checkbox"/>	苦情記入カードの配布やアンケート(匿名)を実施するなど、子どもや保護者等が苦情を申し出しやすい工夫を行っている。	○	
<input type="checkbox"/>	苦情内容については、受付と解決を図った記録が適切に保管している。	○	
<input type="checkbox"/>	苦情内容に関する検討内容や対応策については、子どもや保護者等に必ずフィードバックしている。	○	
<input type="checkbox"/>	苦情内容及び解決結果等は、苦情を申し出た子どもや保護者等に配慮したうえで、公表している。	○	
<input type="checkbox"/>	苦情相談内容にもとづき、養育・支援の質の向上に関わる取組が行われている。	○	

【コメント】

外部委員で構成された「こどもの権利擁護委員会」を設置し、年1回、委員と職員で懇談会を行い、1年間の報告をしている。子どもたちには年度初めに、委員長より、委員会の目的や投函箱の設置の説明を行い、苦情解決の仕組みを伝えている。苦情が投函された時には、職員に内容を伝えるとともに、権利擁護委員会の委員と子どもが、納得のいくまで話し合いを行っている。苦情の件数は、毎年、広報誌に掲載している。日頃から子どもたちとのコミュニケーションを積極的に図り、子どもと職員がお互いに意見を言い合える関係作りに努めている。

②	35 子どもが相談や意見を述べやすい環境を整備し、子ども等に周知している。	a	35
<input type="checkbox"/>	子どもが相談したり意見を述べたりする際に、複数の方法や相手を自由に選べることをわかりやすく説明した文書を作成している。	○	
<input type="checkbox"/>	子どもや保護者等に、その文章の配布やわかりやすい場所に掲示する等の取組を行っている。	○	
<input type="checkbox"/>	相談をしやすい、意見を述べやすいスペースの確保等の環境に配慮している。	○	

【コメント】

日頃から子どもたちとのコミュニケーションを積極的に図り、子どもと職員がお互いに意見を言い合える関係作りに努めている。また、担当者が1対1で外出(映画、ボーリング、外食など)し、施設内では言いにくいことなどを個別に聞いている。各寮では、スタッフルームのカーテンを閉めたり、子どもの部屋(個室)で相談に対応するなど、プライバシーに配慮しながら、話を聞いている。

③	36 子どもからの相談や意見に対して、組織的かつ迅速に対応している。	a	36
<input type="checkbox"/>	相談や意見を受けた際の記録の方法や報告の手順、対応策の検討等について定めたマニュアル等を整備している。	○	
<input type="checkbox"/>	対応マニュアル等の定期的な見直しを行っている。	○	
<input type="checkbox"/>	職員は、日々の養育・支援の実施において、子どもが相談しやすく意見を述べやすいように配慮し、適切な相談対応と意見の傾聴に努めている。	○	
<input type="checkbox"/>	意見箱の設置、アンケートの実施等、子どもの意見を積極的に把握する取組を行っている。	○	
<input type="checkbox"/>	職員は、把握した相談や意見について、検討に時間がかかる場合に状況を速やかに説明することを含め迅速な対応を行っている。	○	

	<input type="checkbox"/> 意見等にもとづき、養育・支援の質の向上に関わる取組が行われている。	<input type="radio"/>	
【コメント】			
「こどもの権利擁護委員会」を設置し、投函箱や電話などで子どもの訴えがあった時には、迅速に対応できるようにしている。子どもたちからの訴えには、「相談のあった問題を確認した」ことを、子どもたちにしっかりと伝え、解決にあたっている。解決にあたっては、職員一人ひとりの力量や経験もあるが、フロアリーダーなどからスーパービジョンを受け、経験を積み重ね、迅速な対応ができるようになってきている。			
(5)	安心・安全な養育・支援の実施のための組織的な取組が行われている。	第三者 評価結果	
	① 37 安心・安全な養育・支援の実施を目的とするリスクマネジメント体制が構築されている。	a	37
	<input type="checkbox"/> リスクマネジメントに関する責任者の明確化(リスクマネジャーの選任・配置)、リスクマネジメントに関する委員会を設置するなどの体制を整備している。	<input type="radio"/>	
	<input type="checkbox"/> 事故発生時の対応と安全確保について責任、手順(マニュアル)等を明確にし、職員に周知している。	<input type="radio"/>	
	<input type="checkbox"/> 子どもの安心と安全を脅かす事例の収集が積極的に行われている。	<input type="radio"/>	
	<input type="checkbox"/> 収集した事例をもとに、職員の参画のもとで発生要因を分析し、改善策・再発防止策を検討・実施する等の取組が行われている。	<input type="radio"/>	
	<input type="checkbox"/> 職員に対して、安全確保・事故防止に関する研修を行っている。	<input type="radio"/>	
	<input type="checkbox"/> 事故防止策等の安全確保策の実施状況や実効性について、定期的に評価・見直しを行っている。	<input type="radio"/>	
【コメント】			
職員にAEDの研修を行い、事故発生時の対応に努めている。また、外部からの不審者侵入の対応として、敷地内に防犯カメラを設置している。防犯カメラの設置だけでは十分ではないため、職員がリスクマネジメントの研修に参加して対応を検討している。建物内に死角がないよう、建物の設計を行っている。子どもたちに怪我や子ども同士の間の暴力行為などが起きた場合には、市の対応マニュアルに沿って報告書を提出している。			
	② 38 感染症の予防や発生時における子どもの安全確保のための体制を整備し、取組を行っている。	a	38
	<input type="checkbox"/> 感染症対策について、責任と役割を明確にした管理体制が整備されている。	<input type="radio"/>	
	<input type="checkbox"/> 感染症の予防と発生時等の対応マニュアル等を作成し、職員に周知徹底している。	<input type="radio"/>	
	<input type="checkbox"/> 担当者等を中心にして、定期的に感染症の予防や安全確保に関する勉強会等を開催している。	<input type="radio"/>	
	<input type="checkbox"/> 感染症の予防策が適切に講じられている。	<input type="radio"/>	
	<input type="checkbox"/> 感染症の発生した場合には対応が適切に行われている。	<input type="radio"/>	
	<input type="checkbox"/> 感染症の予防と発生時等の対応マニュアル等を定期的に見直している。	<input type="radio"/>	
【コメント】			
子どもたちの予防接種の記録や健康管理のファイルを作成する他、感染症予防マニュアルを各寮に備えている。感染症に関しては、保健所からの指示に従い、必要な措置を取るようになっている。嘔吐物処理キットを用意し、インフルエンザに罹患した場合には、寝室などの配慮をしている。感染症の予防については、献立会議の場で、栄養士から説明を行っている。年少児童寮では職員が、手洗い、うがい、掃除の徹底、加湿器の設置などに取り組んでいる。また、消防署で行われる救急法の研修に職員が交代で参加し、乳幼児救急法は神児研の研修に年1回は必ず参加している。			
	③ 39 災害時における子どもの安全確保のための取組を組織的に行っている。	a	39
	<input type="checkbox"/> 災害時の対応体制が決められている。	<input type="radio"/>	
	<input type="checkbox"/> 立地条件等から災害の影響を把握し、建物・設備類、養育・支援を継続するために必要な対策を講じている。	<input type="radio"/>	
	<input type="checkbox"/> 子ども及び職員の安否確認の方法が決められ、すべての職員に周知されている。	<input type="radio"/>	
	<input type="checkbox"/> 食料や備品類等の備蓄リストを作成し、管理者を決めて備蓄を整備している。	<input type="radio"/>	

	<input type="checkbox"/> 防災計画等整備し、地元の行政をはじめ、消防署、警察、自治会、福祉関係団体等と連携するなど、体制をもって訓練を実施している。	○
【コメント】 施設の備蓄倉庫には、地域住民のものを含め、5日分の備蓄品がある。災害時に備え、避難訓練を毎月実施している。また、年に1回は消防署の協力を受け、消火訓練を行っている。就寝時に災害が起こった場合にすぐに避難できるように、ベッド近くにサンダルを常備している。今後は夜間想定避難訓練も行っていかなければならないと捉えている。		

2 養育・支援の質の確保

(1) 養育・支援の標準的な実施方法が確立している。	第三者 評価結果
----------------------------	-------------

① 40 養育・支援について標準的な実施方法が文書化され養育・支援が実施されている。	a	40
<input type="checkbox"/> 標準的な実施方法が適切に文書化されている。	○	
<input type="checkbox"/> 標準的な実施方法には、子どもの尊重、プライバシーの保護や権利擁護に関わる姿勢が明示されている。	○	
<input type="checkbox"/> 標準的な実施方法について、研修や個別の指導等によって職員に周知徹底するための方策を講じている。	○	
<input type="checkbox"/> 標準的な実施方法にもとづいて実施されているかどうかを確認する仕組みがある。	○	

【コメント】 毎年発行している「日本水上学園の児童養護」に、養育・支援の実施方法や、各寮の支援の取り組みをまとめ、支援の振り返りや今後の方針を明確にしている。「日本水上学園の児童養護」の発行に当たっては、全職員が内容を確認しながら行っている。	
---	--

② 41 標準的な実施方法について見直しをする仕組みが確立している。	a	41
<input type="checkbox"/> 養育・支援の標準的な実施方法の検証・見直しに関する時期やその方法が施設で定められている。	○	
<input type="checkbox"/> 養育・支援の標準的な実施方法の検証・見直しが定期的実施されている。	○	
<input type="checkbox"/> 検証・見直しにあたり、自立支援計画の内容が必要に応じて反映されている。	○	
<input type="checkbox"/> 検証・見直しにあたり、職員や子ども等からの意見や提案が反映されるような仕組みになっている。	○	

【コメント】 1年間の支援内容を振り返る作業を各寮ごとに行い、職員会議の場で内容を共有している。年度の目標とその目標に対する評価、課題点などについてまとめ、文書化している。文書化は、フロアリーダーを中心に行っている。	
--	--

(2) 適切なアセスメントにより自立支援計画が策定されている。

① 42 アセスメントにもとづく個別的な自立支援計画を適切に策定している。	a	42
<input type="checkbox"/> 自立支援計画策定の責任者を設置している。	○	
<input type="checkbox"/> アセスメント手法が確立され、適切なアセスメントが実施されている。	○	
<input type="checkbox"/> 部門を横断したさまざまな職種の関係職員(種別によっては施設以外の関係者も)が参加して、アセスメント等に関する協議を実施している。	○	
<input type="checkbox"/> 自立支援計画には、子ども一人ひとりの具体的なニーズが明示されている。	○	
<input type="checkbox"/> 自立支援計画を策定するための部門を横断したさまざまな職種による関係職員(種別によっては組織以外の関係者も)の合議、子どもの意向把握と同意を含んだ手順を定めて実施している。	○	
<input type="checkbox"/> 自立支援計画どおりに養育・支援が行われていることを確認する仕組みが構築され、機能している。	○	

	<input type="checkbox"/> 支援困難ケースへの対応について検討し、積極的かつ適切な養育・支援が行われている。	○
--	---	---

【コメント】

入所時カンファレンスや心理判定カンファレンス、自立支援計画書（前・後期）それぞれに所定の記録用紙があり、自立支援計画書は各担当職員が作成し、フロアリーダーや施設長の確認を受け、寮会議で内容を共有している。精神的な部分で問題を抱えている子どもは、児童相談所の臨床心理士の心理判定を受けている。

②	43 定期的に自立支援計画の評価・見直しを行っている。	a
	<input type="checkbox"/> 自立支援計画の見直しについて、見直しを行う時期、検討会議の参加職員、子どもの意向把握と同意を得るための手順等、組織的な仕組みを定めて実施している。	○
	<input type="checkbox"/> 見直しによって変更した自立支援計画の内容を、関係職員に周知する手順を定めて実施している。	○
	<input type="checkbox"/> 自立支援計画を緊急に変更する場合の仕組みを整備している。	○
	<input type="checkbox"/> 自立支援計画の評価・見直しにあたっては、標準的な実施方法に反映すべき事項、養育・支援を十分に実施できていない内容（ニーズ）等、養育・支援の質の向上に関わる課題等が明確にされている。	○

43

【コメント】

児童相談所とは適宜カンファレンスを行い、子どもに対する支援目標や見立ての共有を図り、自立支援計画書を見直す機会としている。児童相談所のケースワーカーは変更があり、連携が難しい場合もある。

(3) 養育・支援の実施の記録が適切に行われている。		
①	44 子どもに関する養育・支援の実施状況の記録が適切に行われ、職員間で共有化されている。	a
	<input type="checkbox"/> 子どもの身体状況や生活状況等を、施設が定めた統一した様式によって把握し記録している。	○
	<input type="checkbox"/> 自立支援計画にもとづく養育・支援が実施されていることを記録により確認することができる。	○
	<input type="checkbox"/> 記録する職員で記録内容や書き方に差異が生じないように、記録要領の作成や職員への指導等の工夫をしている。	○
	<input type="checkbox"/> 施設における情報の流れが明確にされ、情報の分別や必要な情報が的確に届くような仕組みが整備されている。	○
	<input type="checkbox"/> 情報共有を目的とした会議の定期的な開催等、部門横断での取組がなされている。	○
	<input type="checkbox"/> パソコンのネットワークシステムの利用や記録ファイルの閲覧等を実施して、施設内で情報を共有する仕組みが整備されている。	○

44

【コメント】

児童育成記録は、各担当職員が記録している。また、打合せノートに特記事項を記録し、自立支援計画書にも反映している。朝の打合せで昨日の出来事を口頭で説明し、書面に記録している。子どもたちの様子を詳しく伝えるために、職員間の連携、コミュニケーションを大切に、職員がさまざまな意見を発言できるような環境作りを心掛けている。

②	45 子どもに関する記録の管理体制が確立している。	a
	<input type="checkbox"/> 個人情報保護規程等により、子どもの記録の保管、保存、廃棄、情報の提供に関する規定を定めている。	○
	<input type="checkbox"/> 個人情報の不適正な利用や漏えいに対する対策と対応方法が規定されている。	○
	<input type="checkbox"/> 記録管理の責任者が設置されている。	○
	<input type="checkbox"/> 記録の管理について個人情報保護の観点から、職員に対し教育や研修が行われている。	○
	<input type="checkbox"/> 職員は、個人情報保護規程等を理解し、遵守している。	○
	<input type="checkbox"/> 個人情報の取扱いについて、子どもや保護者等に説明している。	○

45

【コメント】

子どもに対する記録類は、事務所内の鍵付きのロッカーで保管している。職員が記録を持ち出す場合には、記録簿に必ず記録するようにしている。また、写真の管理方法なども定めている。

□
内容評価基準（41項目）A-1 子ども本位の養育・支援

(1) 子どもの尊重と最善の利益の考慮		第三者 評価結果	
①	A1 社会的養護が子どもの最善の利益を目指して行われることを職員が共通して理解し、日々の養育・支援において実践している。	a	A1
	□養育・支援の内容が子どもにとって最善の利益になっているかを、振り返り検証する機会が設けられている。	○	
	□子どもの養育や成長にとって何が最善なのかを、職員間において常に話し合える環境にある。	○	
	□職員が日々子どもとのやり取りを振り返り、必要に応じてスーパービジョンを受けられる環境が整っている。	○	
	□受容的・支持的なかかわりを基本としながらも、養育者として伝えるべきメッセージはきちんと伝えるなど、子どもの状況に応じて適切な対応ができるよう、常に子どもの最善の利益を考慮し真摯に向き合っている。	○	

【コメント】

子どもの最善の利益は、子どもたちが将来「働ける大人」になることと認識し、コミュニケーション力、基礎学力、自分を守り人のせいにはしないということ、日々の支援のなかで行っている。施設のなかでは、子どもたちが守られ過ぎていけないし、また、単に「いいよ」と言うだけでは、無責任な対応になると捉えている。卒園生の姿を見て、支援の在り方を検証している。

②	A2 子どもの発達段階に応じて、子ども自身の出生や生い立ち、家族の状況について、子どもに適切に知らせている。	a	A2
	□子どもの発達段階等に応じて、適切に事実を伝えようと努めている。	○	
	□事実を伝える場合には、個別の事情に応じて慎重に対応している。	○	
	□伝え方や内容などについて職員会議等で確認し、職員間で共有している。	○	
	□事実を伝えた後、子どもの変容などを十分把握するとともに、適切なフォローを行っている。	○	

【コメント】

担当職員が中心になり、子どもたちの「生い立ちの整理」を行っている。「生い立ちの整理」をすることで、子どもたちが前向きに将来を考え、自立していくことが大切と考えている。作成した「生い立ちの整理」は児童相談所にも提出し、担当福祉司や支援係長に見てもらい、意見をもらっている。子どもたち個々の状況に合わせて、生育歴の整理や家族との関わり、将来のことについて話し合い、退所するまでの期間に、子どもたち本人の理解や納得が得られるように支援している。これらの支援を進めていくためには、担当職員と子どもとの信頼関係が重要であると捉えている。

(2) 権利についての説明			
①	A3 子どもに対し、権利について正しく理解できるよう、わかりやすく説明している。	a	A3
	□定期的に全体の場で権利についての理解を深めるよう、子どもたちに説明している。	○	
	□権利ノートやそれに代わる資料等を使用して、施設生活の中で保障されるさまざまな権利についてわかりやすく説明している。	○	
	□年齢に配慮した説明を工夫している。(例えば高校生、中学生、小学生などに分けた説明の機会)	○	
	□定期的に職員間で子どもの権利に関する学習機会を持っている。	○	
	□子ども一人ひとりがかけがえのない大切な存在であり、自分を傷つけたりおとしめたりしてはならないことまた、他人を傷つけたり脅かしたりしてはならないことが、日々の養育の中で伝わっている。	○	

【コメント】

毎年4月に、「こどもの権利擁護委員会」の委員長から、権利擁護委員会と投函箱の説明を子どもたちに行っている。高校生については、高校生オリエンテーションを年度初めに行い、高校生活を送る上での注意点やルールなどを確認している。これらの説明を子どもたちに迅速に行うことを、職員間で共有し、実践している。

(3) 他者の尊重

①	A4 様々な生活体験や多くの人たちとのふれあいを通して、他者への心づかいや他者の立場に配慮する心が育まれるよう支援している。	a	A4
	<input type="checkbox"/> 基本的な信頼感を獲得するなど良好な人間関係を築くために職員と子どもが個別にふれあう時間を確保している。	<input type="radio"/>	
	<input type="checkbox"/> 喧嘩など子ども間でトラブルが生じた場合、相手の人格を尊重しながら、基本的には子ども同士で関係を修復できるよう支援をしている。	<input type="radio"/>	
	<input type="checkbox"/> 日々の生活や行事等で、子どもが協働して行う場面では、助け合い、認め合い、協力し合い、感謝し合う態度を促進するよう支援している。	<input type="radio"/>	
	<input type="checkbox"/> 年下の子どもの障がいのある子どもなど弱い立場にある仲間に対しては、思いやりの心をもって接するように支援している。	<input type="radio"/>	

【コメント】

個別担当制をとり、外出や外泊などを通して、子どもたちと信頼関係を築くことができるようにしている。年少児童寮は2歳から小学1年生までが、年長児童寮は小学2年生から高校生までが同じフロアで過ごしており、子ども同士が日常生活のなかで助け合い、自分や他者を認めて生活を送ることができるように支援している。職員が手本を見せながら、男女の隔たりなく、掃除や洗濯を行うことができるよう促している。生活の中で、男性だからこの仕事をする、女性だからこの仕事をということはなく、男女関係なく自転車のパンクの修理をしたり、自分の衣服の繕いものをしたりしている。職員も男女関係なく、仕事をしている。性別によって役割分担などの区別はしていないが、性教育の時には発達に応じ、男女別に注意すべきことを伝えている。

(4) 被措置児童等虐待対応

①	A5 いかなる場合においても体罰や子どもの人格を辱めるような行為を行わないよう徹底している。	a	A5
	<input type="checkbox"/> 「就業規則」等の規程に体罰等の禁止を明記しており、規程に基づいて厳正に処分などを行う仕組みが行われている。	<input type="radio"/>	
	<input type="checkbox"/> 被措置児童等虐待防止ガイドラインに示されているような具体的な例を示して、日常的な会議や研修会等で体罰等を禁止している。	<input type="radio"/>	
	<input type="checkbox"/> 被措置児童等への虐待行為や不適切対応があった場合、主管行政窓口や児童相談所等に報告するとともに第三者委員等も入れて適切な調査をし、対処することが出来ている。	<input type="radio"/>	

【コメント】

「児童養護施設における人権擁護のためのチェックリスト」により、職員全員が不適切な対応がないよう心掛けている。経験の長い職員が、職員会議や日々の実践のなかで、意見交換やスーパービジョンを提供しながら、不適切な対応がないよう注意喚起している。複数指導体制をとり、迅速な対応ができるようにしている。

②	A6 子どもに対する不適切なかかわりの防止と早期発見に取り組んでいる。	a	A6
	<input type="checkbox"/> 不適切なかかわりがあった場合を想定して、施設長が職員・子ども双方にその原因や方法・程度等、事実確認をすることや、「就業規則」等の規程に基づいて厳正に処分を行うような仕組みがつけられている。	<input type="radio"/>	
	<input type="checkbox"/> 不適切なかかわりを発見した場合には、記録し、必ず施設長等に報告することが明文化されている。	<input type="radio"/>	
	<input type="checkbox"/> 暴力、人格的辱め、心理的虐待などの不適切なかかわりの防止について、具体的な例を示し、職員に徹底している。	<input type="radio"/>	
	<input type="checkbox"/> 不適切なかかわりの防止を徹底するため、日常的に会議等で取り上げ、行われていないことを確認している。	<input type="radio"/>	
	<input type="checkbox"/> 不適切なかかわりの防止について、具体的な例を示して、子どもに周知している。	<input type="radio"/>	
	<input type="checkbox"/> 子どもが自分自身を守るための知識、具体的方法について学習する機会を設けている。	<input type="radio"/>	

【コメント】

複数指導体制により、職員同士がお互いに指摘し合える関係性の構築に努めている。自分自身では気付くことができない部分を、指摘し合うようにしている。また、フロアリーダーからより良い関わりについて、スーパービジョンを受けている。不適切な関わりがあった場合には、「こどもの権利擁護委員会」や児童相談所に報告し、対応している。

③	A7 被措置児童等虐待の届出・通告に対する対応を整備し、迅速かつ誠実に対応している。	a	A7
---	--	---	----

<input type="checkbox"/>	被措置児童等虐待の届出・通告制度について、対応マニュアルが整備され、かつ日常的に活用できるようにしている。	○
<input type="checkbox"/>	被措置児童等虐待の届出・通告があった場合に、届出者・通告者が不利益を受けることのない仕組みが整備・徹底されている。	○
<input type="checkbox"/>	被措置児童等虐待が疑われる事案が生じたときに、施設内で検証し、第三者の意見を聞くなどの迅速かつ誠実な対応をするための体制整備ができています。	○
<input type="checkbox"/>	被措置児童等虐待の届出・通告制度について説明した資料を子ども等に配布、説明しているとともに、掲示物を掲示するなどして、子どもが自ら訴えることができるようにしている。	○

【コメント】

「こどもの権利擁護委員会」を設置し、権利擁護に関する事案が発生した場合には、改善にむけて迅速に対応するシステムを作っている。権利擁護の仕組みは、フローチャートで示し、仕組みが理解しやすいよう工夫している。

(5) 思想や信教の自由の保障

①	A8 子どもや保護者等の思想や信教の自由を保障している。	a	A8
<input type="checkbox"/>	子どもの思想・信教の自由については、最大限に配慮し保障している。	○	
<input type="checkbox"/>	施設において子どもの思想や信教の自由を保障しようと努めているが十分ではない。		
<input type="checkbox"/>	保護者等の思想・信教によってその子どもの権利が損なわれないよう配慮している。	○	

【コメント】

キリスト教の施設であるため、5年前までは礼拝の時間や日曜学校への参加などが行われていた。現在は毎月のお誕生会やクリスマス会に讃美歌を歌うが、礼拝の時間や日曜学校に通うことは行っていない。職員の採用にあっても、クリスチャンであることは条件に入っていない。子どもの思想や信仰の自由を十分保障している。

(6) こどもの意向や主体性への配慮

①	A9 子どものそれまでの生活とのつながりを重視し、そこから分離されることに伴う不安を理解し受けとめ、不安の解消を図っている。	a	A9
<input type="checkbox"/>	入所した時、温かく迎える準備をしているなど様々な工夫を凝らし、受け入れについて施設全体で行っている。	○	
<input type="checkbox"/>	被虐待体験だけでなく、子どもの分離体験に関して施設側が理解し、配慮している。	○	
<input type="checkbox"/>	分離体験からの回復に関する課題への具体的な取組を行っている。	○	
<input type="checkbox"/>	入所の相談から施設での生活が始まるまで、子どもや保護者等への対応についての手順を定めており、定期的に見直しを行い、実践している。	○	

【コメント】

入所前の見学を積極的に受入れ、子どもや保護者に丁寧な説明を行い、不安の解消に努めている。年少児童寮では、慣らし保育も実施している。子どもたちの支援にあたっては、これまでの生活の継続性に配慮しながら、また、新しい仲間との関係性を大切にしながら、落ち着いた生活を送ることができるようにしている。また、子どもの入所の際には、担当職員から「ぬいぐるみ」をプレゼントしている。多くの子どもが「ぬいぐるみ」をととても大切に、施設内の見学の際には、子どもたちのベッドの上に、一人ひとり異なった大きな「ぬいぐるみ」が置かれていた。

②	A10 職員と子どもが共生の意識を持ち、子どもの意向を尊重しながら生活全般について共に考え、生活改善に向けて積極的に取り組んでいる。	a	A10
<input type="checkbox"/>	生活改善に向けての取組を職員と子どもが共に考え、実施している。	○	
<input type="checkbox"/>	生活日課や生活プログラムは子どもとの話し合いを通じて策定している。	○	
<input type="checkbox"/>	子どもが自分たちの生活における問題や課題について主体的に検討する機会を日常的に確保している。	○	

【コメント】

高校生オリエンテーションや全体会、各寮の子どものリーダー会などで、子どもたちの意向を把握し、子どもたちからの意見や要望は職員会議で取り上げている。高校生オリエンテーションでは、携帯電話や帰宅時間、外出のことなどについて希望や意見があがり、話し合いを行っている。各寮であがった希望や意見はフロアリーダーがまとめ、職員会議で報告し、他の寮の職員の意見を聞きながら、話し合いを行っている。職員が子どもたちを共通理解し、支援の方針を決めている。

(7) 主体性、自律性を尊重した日常生活

①	A11 日々の暮らしや、余暇の過ごし方など健全な生活のあり方について、子ども自身が主体的に考え生活できるよう支援している。	a	A11
	<input type="checkbox"/> 一人ひとりの子どもの趣味や興味、生活文化にあった生活になるように子どもの意見を反映させ、適宜改変している。	<input type="radio"/>	
	<input type="checkbox"/> 図書、雑誌、新聞等、またテレビ、ビデオ、オーディオ等が、子どもの健全な発達に考慮したうえで、自由に使用できる。また、ゲームの適切な使用の配慮がされている。	<input type="radio"/>	
	<input type="checkbox"/> 子どもが主体的に生活に関わることができるよう工夫がされている。	<input type="radio"/>	
	<input type="checkbox"/> 活動に対して自発的な参加を促すよう支援している。	<input type="radio"/>	
	<input type="checkbox"/> 行事等の参画について、子ども一人ひとりの選択を尊重している。	<input type="radio"/>	
	<input type="checkbox"/> 子どもが地域の活動等に参加することを望む場合、可能な限りそれに応えている。	<input type="radio"/>	

【コメント】

子どもの嗜好や性格に合わせ、小学生は地域のスポーツクラブに通ったり、高校生は英会話に通ったり、その他に学習ボランティアにピアノを教えてもらったりしている。子どもたちが行きたい場所がある時には、担当職員と一緒に外出している。「経済的自立」のためには学習が重要であるため、公文を取り入れている。中学生は全員部活を行い、高校生は部活、アルバイト、勉強など、自分で考えて選択して行っている。個人的に「習い事をしたい」などの希望がある場合は、担当職員と時間的な問題や金銭的問題などを話し合い、決めている。各寮のリビングには本棚があり、テレビを見る際に自然と本が目に入るよう工夫し、子どもたちに読書の習慣が身に付くようにしている。

②	A12 子どもの発達段階に応じて、金銭の管理や使い方など経済観念が身につくよう支援している。	a	A12
	<input type="checkbox"/> 小遣い帳や通帳を使って、限られたお金を計画的に使用する、金銭の自己管理ができるよう支援している。	<input type="radio"/>	
	<input type="checkbox"/> 大人と一緒に買物に行ったり、一人で買物をさせるなど物の値段の相場や、金銭感覚が身につくよう支援している。	<input type="radio"/>	
	<input type="checkbox"/> 自立を控えた子どもなど、必要な子どもに対し、一定の生活費の範囲で生活することを学ぶプログラムを実施している。	<input type="radio"/>	
	<input type="checkbox"/> 児童手当等について、子どもの目的にあわせ適切に使用または貯蓄をしている。	<input type="radio"/>	

【コメント】

金銭の管理は、年齢に応じて自己管理したり、職員が管理している。児童手当は将来に備え、貯蓄している。高校生にはアルバイトを勧めており、アルバイト代の振込口座を、子どもたちが自分で作っている。アルバイト代は、将来に向けて貯蓄したり、携帯電話代などに充てている。子どもたちは、貯金をすることで、お金が貯まる喜びも感じている。高校2、3年生は、1週間を基本単位として、自立訓練のための部屋で一人暮らしの練習を行っている。一人暮らしの練習では、1週間分の生活費が子どもに渡され、自炊生活を送ることとしている。

(8) 継続性とアフターケア

①	A13 家庭復帰にあたって、子どもが家庭で安定した生活が送ることができるよう復帰後の支援を行っている。	a	A13
	<input type="checkbox"/> 家庭復帰にあたって復帰後の生活を検討している。	<input type="radio"/>	
	<input type="checkbox"/> 家庭復帰後の子どもや家族の状況把握や支援方法など関係機関との役割を明確にしている。	<input type="radio"/>	
	<input type="checkbox"/> 家庭復帰相談を受けることを本人、保護者等に伝えている。	<input type="radio"/>	
	<input type="checkbox"/> 家庭復帰後の子どもや保護者等の状況の把握に努め記録を整備している。	<input type="radio"/>	

【コメント】

家庭復帰にあたっては、親子の意向を踏まえ、帰省などを繰り返し行い、児童相談所と検討して時期を決定している。子どもには、家に帰ることで予想される問題を考える機会を作り、施設での生活が嫌だから家に帰るということにならないよう注意している。幼児は自分の身を守れないこともあるので、家庭復帰については慎重に対応している。家庭復帰後の支援については、担当職員が行うことはせず、基本的に児童相談所の対応としている。

②	A14 できる限り公平な社会へのスタートが切れるように、措置継続や措置延長を積極的に利用して継続して支援している。	a	A14
	<input type="checkbox"/> 高校進学が困難な子どもや高校中退の子どもなどについて措置継続を行い、自立に向けた支援を行っている。	<input type="radio"/>	
	<input type="checkbox"/> 措置延長の期間は、就労支援や就労生活を支援するなど、自立への道筋をつけていく取組を行っている。	<input type="radio"/>	

	<input type="checkbox"/> 高校卒業して進学あるいは就職した子どもであっても、不安定な生活が予想される場合は、必要に応じて措置延長を利用して支援を継続している。	○	
【コメント】			
措置延長の制度は活用していないが、実態としては同様の対応を行っている。進学する子どもに施設内の一室（職員寮）を提供し、そこから通学している。家賃や光熱費、食費などはすべて施設が負担し、また、家庭教師のアルバイトや宿直補助アルバイトをお願いすることで、経済的援助を行っている。現在、理学療法士の専門学校、看護専門学校、大学の看護科に、3名が通っている。職員寮の提供は、卒園して目的を持って努力している子どもを優先している。			
	③ A15 子どもが安定した社会生活を送ることができるようリービングケアと退所後の支援に積極的に取り組んでいる。	a	A15
	<input type="checkbox"/> 子どものニーズを把握し、退所後の生活に向けてリービングケアの支援を行っている。	○	
	<input type="checkbox"/> 退所後も施設に相談できる窓口（担当者）があり、支援をしていくことを伝えている。	○	
	<input type="checkbox"/> 退所者の状況の把握に努め、記録が整備されている。	○	
	<input type="checkbox"/> 行政機関や福祉機関、あるいは民間団体等と連携を図りながらアフターケアを行っている。	○	
	<input type="checkbox"/> 本人からの連絡だけでなく、就労先、アパート等の居住先からの連絡、警察等からのトラブル発生時の連絡などにも対応している。	○	
	<input type="checkbox"/> 退所者が集まれる機会や、退所者と職員・入所している子どもとが交流する機会を設けている。	○	
【コメント】			
卒園後の子どもの生活は、入所中の支援の結果であると重く受け止めている。子どもたちが就職したり、進学したりするなかで、20歳までは担当職員が積極的に連絡をとっている。毎年、卒園後1～2年目の人を中心に、1月に新年会を開催し、高校生と集う機会を設けている。現在の生活の様子や仕事内容などの話が出て、高校生の参考になっている。			

A-2 養育・支援の質の確保

(1) 養育・支援の基本		第三者 評価結果	
	① A16 子どもを理解し、子どもが表出する感情や言動をしっかり受け止めている。	a	A16
	<input type="checkbox"/> 職員はさまざまな知見や経験によって培われた感性に基づいて子どもを理解し、受容的・支持的な態度で寄り添い、子どもと共に課題に向き合っている。	○	
	<input type="checkbox"/> 子どもの生育歴を知り、そのときどきで子どもの心に何が起こっていたのかを理解している。	○	
	<input type="checkbox"/> 子どもが表出する感情や言動のみを取り上げるのではなく、被虐待体験や分離体験などに伴う苦痛・いかり、見捨てられ感も含めて、子どもの心に何が起こっているのかを理解しようとしている。	○	
	<input type="checkbox"/> 子どもに行動上の問題等があった場合、単にその行為を取り上げて叱責するのではなく、背景にある心理的課題の把握に努めている。	○	
	<input type="checkbox"/> 子ども達に職員への信頼が芽生えていることが、利用者アンケートを通じて感じられる。	○	
【コメント】			
個別担当制を取り、職員が長く子どもと付き合いができるようにしている。職員の平均勤続年数も長く、同じ職員が担当することに加え、寮全体の職員もほとんど変わらないため、子どもたちの生活の場が落ち着き、子どもたちの行動や様子の変化を迅速にキャッチしやすい環境ができています。担当職員は子どもの生育歴を把握し、児童相談所の担当児童福祉司と連携を図り、その後の支援につなげている。子どもに行動上の問題等がある場合や、担当職員だけでは対応が困難な場合は、複数指導体制により、チーム一丸となってバックアップしている。			
	② A17 基本的欲求の充足が、子どもと共に日常生活を構築することを通してなされるよう養育・支援している。	a	A17
	<input type="checkbox"/> 子ども一人ひとりの基本的欲求を把握している。	○	
	<input type="checkbox"/> 基本的欲求の充足において、子どもと職員との関係性を重視している。	○	
	<input type="checkbox"/> 高齢児の日課は、秩序ある生活の範囲内で子どもの意思を尊重した柔軟なものとなっている。	○	
	<input type="checkbox"/> 子どもにとって身近な職員が一定の裁量権を有し、個々の子どもの状況に応じて柔軟に対応できる体制となっている。	○	

<input type="checkbox"/> 基本的な信頼関係を構築するために職員と子どもが個別に触れ合う時間を確保している。	<input type="checkbox"/>
<input type="checkbox"/> 夜目覚めたとき大人の存在が感じられるなど安心感に配慮している。	<input type="checkbox"/>

【コメント】

担当職員が一番身近な存在として子どものことを理解し、子どもの変化に気付くように努力している。日常生活の中で、子どもたちの気持ちに寄り添い、様子を気遣い、意識的に話をし、信頼関係を深めている。担当職員と外出の機会を設け、食事や映画を見に行くなどして、子どもたちは楽しい時間を過ごすことができている。年少児童寮の寝室の横には宿直室があり、夜泣きやトイレなどで子どもたちが目を覚ました時には、迅速に対応ができるようになっている。子どもの欲求は様々な場面で表出することから、気付いた職員は担当職員に伝え、適切な支援につなげるようにしている。

③	A18 子どもの力を信じて見守るという姿勢を大切に、子どもが自ら判断し行動することを保障している。	a
	<input type="checkbox"/> 子どもがやらなければならないことや当然できることについては、子ども自身が行うように見守ったり、働きかけたりしている。	<input type="checkbox"/>
	<input type="checkbox"/> 職員は必要以上の指示や制止をしていない。	<input type="checkbox"/>
	<input type="checkbox"/> 子どもを見守りながら状況を的確に把握し、賞賛、励まし、感謝、指示、注意等の声かけを適切に行っている。	<input type="checkbox"/>
	<input type="checkbox"/> つまずきや失敗の体験を大切に、主体的に問題を解決していくよう支援し、必要に応じてフォローしている。	<input type="checkbox"/>
	<input type="checkbox"/> 朝・夕の忙しい時間帯にも、職員が子どもを十分に掌握、援助できるように、職員の配置に配慮している。	<input type="checkbox"/>

A18

【コメント】

平日は、夕方から夜の時間帯に職員を多く配置している。夕食までの時間帯は宿題や小学生の公文を支援し、夕食後は中学生の学習指導を中心に、小学生や高校生との語らいの時間を大切にしている。就寝時には幼児、小学生の低学年までは添い寝をし、本読みなどを行っている。自立には社会性を養うことが大切と考え、子どもたちの意思を尊重しながら、神奈川県社会福祉施設文化体育行事に参加し、いろいろな経験を積むことができるようにしている。子どもと職員が一体になり、卓球では1位の成績を獲得し、職員も2位と優秀な成績をおさめている。

④	A19 発達段階に応じた学びや遊びの場を保障している。	a
	<input type="checkbox"/> 施設内での保育が、年齢や発達状況に応じたプログラムの下、実施されている。	<input type="checkbox"/>
	<input type="checkbox"/> 日常生活の中で、子どもたちの学びや遊びに関するニーズを把握できている。必要性があれば可能な限りニーズに応えている。	<input type="checkbox"/>
	<input type="checkbox"/> 幼児から高校生まで、年齢段階に応じた図書などの文化財、玩具・遊具が用意、利用されている。	<input type="checkbox"/>
	<input type="checkbox"/> 学校や地域にある子どもたちの学びや遊びに関する情報を把握し、必要な情報交換ができている。	<input type="checkbox"/>
	<input type="checkbox"/> 子どものニーズに応えられない場合、子どもがきちんと納得できる説明がされている。	<input type="checkbox"/>
	<input type="checkbox"/> 幼稚園に就園させている。	<input type="checkbox"/>
	<input type="checkbox"/> 子どもの学びや遊びを保障するための、資源（ボランティア等）が十分に活用されている。	<input type="checkbox"/>

A19

【コメント】

個別担当制を基本として、子どもたちの成長に応じたプログラムが作成されている。居間には本を備え置き、本が苦手な子どもも興味を持てるように漫画本なども置かれている。小学生は「毎日こども新聞」、中高生は一般の新聞を購読している。海外のニュースや文化にも触れられるように、CS放送も視聴できるようにし、年齢に応じてあらゆる価値観がもてるようにしている。年少児童寮には、ウッドデッキに滑り台などの遊具や植木鉢があり、野菜などを育てられる環境がある。中庭にはバスケットゴールを備え、子どもたちが自由に遊べる環境を整えている。

⑤	A20 秩序ある生活を通して、基本的な生活習慣を確立するとともに、社会常識及び社会規範、様々な生活技術が習得できるよう養育・支援している。	a
	<input type="checkbox"/> 職員の指示や声かけが適切で、施設全体が穏やかな雰囲気の中で秩序ある生活が営まれている。	<input type="checkbox"/>
	<input type="checkbox"/> 普段から、職員が振る舞いや態度で模範を示している。	<input type="checkbox"/>

A20

<input type="checkbox"/> 施設生活・社会生活の規範等守るべきルール、「しなければならないこと」と「してはならないこと」を理解できるよう子どもに説明し、責任ある行動をとるよう支援している。	<input type="radio"/>
<input type="checkbox"/> 見やすくわかりやすい掲示物など、子どもが社会生活を営む上での必要な知識や技術を日常的に伝え、子どもがそれらを受得できるよう支援している。	<input type="radio"/>
<input type="checkbox"/> 地域社会への積極的参加を図る等、社会的ルールを受得する機会を設けている。	<input type="radio"/>

【コメント】

日常生活習慣が身に付けられるように、子どもたちは部屋の掃除などを分担して行っている。子どもたちの将来に向け、調理実習も行っている。社会的なマナーを受得する場として、担当職員との外出などには公共交通機関を利用し、社会性やモラルを学ぶ機会にしている。高校生はアルバイトをし、社会のルールや人間関係、お金の大切さなどを学ぶ良い機会になっている。また、老人ホームやデイサービスなどのボランティア活動に参加したことで、その後、高齢者施設の就職につながったこともある。

(2) 食生活

① A21 食事は、団らんの場でもあり、おいしく楽しみながら食事ができるよう工夫している。	a	A21
<input type="checkbox"/> 食事の時間が適切で、食事を通して生活のリズムが形成されている。	<input type="radio"/>	
<input type="checkbox"/> 無理なく楽しみながら食事ができるように、年齢や個人差に応じて食事時間に配慮している。	<input type="radio"/>	
<input type="checkbox"/> 食事場所は明るく楽しい雰囲気、常に清潔が保たれている。	<input type="radio"/>	
<input type="checkbox"/> 食事の時間が、職員と子ども、そして子ども同士のコミュニケーションの場として機能するよう工夫している。	<input type="radio"/>	
<input type="checkbox"/> 陶器の食器等を使用したり、盛りつけやテーブルの飾りつけの工夫など、食事をおいしく食べられるように工夫している。	<input type="radio"/>	
<input type="checkbox"/> クラブ活動等子どもの事情に応じて、温かいものは温かく、冷たいものは冷たくという食事の適温提供に配慮している。	<input type="radio"/>	
<input type="checkbox"/> 施設外での食事、来客を迎える食事など、食事を楽しむ多様な機会を設けている。	<input type="radio"/>	

【コメント】

年長児童寮は、土曜日の昼食と長期休みの昼食以外は、基本的に食堂に集まり食事をしている。年少児童寮は各部屋で食事をしている。食事中はその日の出来事やニュースなどを話題にして、コミュニケーションを図っている。笑顔が溢れ会話が続く中、職員が食の細い子供たちに「ゆっくりでいいんだよ」と声掛けをして、一人ひとりの子どもの食べるスピードや食事量に気配りしている。担当職員と外食や旅行の機会を設け、施設外でも食事を楽しんでいる。

② A22 子どもの嗜好や健康状態に配慮した食事を提供している。	a	A22
<input type="checkbox"/> 配慮のこもった献立であるとともに子どもの発育に必要な栄養摂取量を満たした食事を提供している。	<input type="radio"/>	
<input type="checkbox"/> 定期的に残食の状況や子どもの嗜好を把握するための取組がなされ、それが献立に反映されている。	<input type="radio"/>	
<input type="checkbox"/> 子どもの年齢、障害や疾病、食物アレルギーなど子どもの心身の状況、また体調など日々の健康状態に応じ、それらに配慮した食事を提供している。	<input type="radio"/>	
<input type="checkbox"/> 少数の子どもを対象として家庭的な環境の下で調理するときであっても、配慮のこもった献立であり栄養面も勘案されるよう、献立について振り返る機会がある。	<input type="radio"/>	

【コメント】

献立は栄養士が考え、内容を毎日掲示している。子どもたちの成長記録と照らし合わせ、食べ過ぎていないか、痩せすぎていないかなどを栄養士が確認し、担当職員に伝えている。献立会議を2週間に1回開催し、子どもたちからの希望に応えられるようにしている。クリスマス会や様々な行事の場では、栄養士の愛情のこもった手作りのケーキやごちそうを提供している。幼稚園児のお弁当の日には、色とりどりの野菜やキャラクターを描いた見た目にも楽しいお弁当を作り、子どもたちの笑顔と食欲の増進につなげている。

③ A23 子どもの発達段階に応じて食習慣を身につけることができるよう食育を推進している。	a	A23
<input type="checkbox"/> 食習慣の習得を、無理なく楽しみながら身につけられるよう工夫している。	<input type="radio"/>	
<input type="checkbox"/> 日々提供される食事について献立の提示等食に関する情報提供等を行っている。	<input type="radio"/>	

<input type="checkbox"/> 食品分類やおやつの摂り方等、栄養についての正しい知識を教えている。	<input type="checkbox"/>
<input type="checkbox"/> 偏食の指導を適切に行っている。	<input type="checkbox"/>
<input type="checkbox"/> 郷土料理、季節の料理、伝統行事の料理などに触れる機会をもち、食文化を継承できるようにしている。	<input type="checkbox"/>
<input type="checkbox"/> 買い物を手伝って材料の選び方を知る機会を設けている。	<input type="checkbox"/>
<input type="checkbox"/> 箸、ナイフ・フォーク等食器の使い方や食事のマナーが習得できるよう支援している。	<input type="checkbox"/>
<input type="checkbox"/> 基礎的な調理技術を習得できるよう、食事やおやつを作る機会を設けている。	<input type="checkbox"/>
<input type="checkbox"/> テーブル拭き、食器洗い、食器消毒、残飯処理など食後の後片づけの習慣が習得できるよう支援している。	<input type="checkbox"/>

【コメント】

食事は楽しむ場であると同時に、コミュニケーションやマナーを身に付ける場であると考えている。年少児童寮、年長児童寮ともに、月に1回、自由献立を行っている。子どもたちがメニュー考え、買い物から調理までを自分たちで行っている。食材の本来の形を知ったり、値段がわかったり、調理の楽しさや技術の向上につながっている。高校生は月に1回調理実習を行い、卒園後の自立に向けた訓練となっている。子どもたちが、伝統行事の料理の意味や箸の使い方、魚の食べ方などが習得できるようにしている。

(3) 衣生活

① A24 衣類が十分に確保され、子どもが衣習慣を習得し、衣服を通じて適切に自己表現できるように支援している。	a	A24
<input type="checkbox"/> 常に衣服は清潔で、体に合い、季節に合ったものを着用している。	<input type="checkbox"/>	
<input type="checkbox"/> 汚れた時にすぐに着替えることができ、またTPOに合わせた服装ができるよう、十分な衣類が確保されている。	<input type="checkbox"/>	
<input type="checkbox"/> 靴についても清潔で体にあつたものが提供され、汚れや水濡れにも適切に対応している。	<input type="checkbox"/>	
<input type="checkbox"/> 気候、生活場面、汚れなどに応じた選択、着替えや衣類の整理、保管などの衣習慣を習得させている。	<input type="checkbox"/>	
<input type="checkbox"/> 洗濯、アイロンかけ、補修等衣服の管理を子どもの見えるところで行うよう配慮している。	<input type="checkbox"/>	
<input type="checkbox"/> 衣服を通じて子どもが適切に自己表現をできるように支援している。	<input type="checkbox"/>	
<input type="checkbox"/> 発達段階や好みに合わせて子ども自身が衣服を選択し購入できる機会を設けている。	<input type="checkbox"/>	

【コメント】

年少児童寮の子どもから高校生まで、一人ひとりに洋服を収納できる筆筒があり、毎日、子どもたちが自分でその日の洋服を選んでいる。各年齢に応じて被服費が設定されており、その費用のなかから、子どもの好みに合わせて購入するようにしている。衣服の汚れやほつれなどは、職員が日頃から気にかけて、必要に応じて修繕している。

(4) 住生活

① A25 居室等施設全体がきれいに整美されている。	a	A25
<input type="checkbox"/> 庭がきれいに清掃され、樹木や草花の植栽にも配慮が届いている。	<input type="checkbox"/>	
<input type="checkbox"/> 室内は明るく、花や絵画が飾られるなど、温かみのある環境になっている。	<input type="checkbox"/>	
<input type="checkbox"/> 食堂やリビングなどの共有スペースは常にきれいにし、家庭的な雰囲気になるよう配慮している。	<input type="checkbox"/>	
<input type="checkbox"/> トイレ、洗面所等は性別や年齢に応じて使いやすいように配慮している。	<input type="checkbox"/>	
<input type="checkbox"/> 必要に応じて、冷暖房設備を整備している。	<input type="checkbox"/>	
<input type="checkbox"/> 設備や家具什器について、汚れていたり壊れていたりしていない。破損箇所については必要な修繕を迅速に行っている。	<input type="checkbox"/>	
<input type="checkbox"/> 発達段階や子どもの状況に応じて日常的な清掃や大掃除を行い、居室等の整理整頓、掃除等の習慣が身につくようにしている。	<input type="checkbox"/>	

【コメント】

子どもたちの年齢に応じて掃除分担箇所を決め、毎朝・夕に掃除を行っている。職員にも掃除分担があり、お互いに確認し合いながら、寮内を清潔に保つように努めている。子どもたちの部屋には、ぬいぐるみや好みの絵、写真が飾られ、それぞれの個性が表れ、居心地の良い場所となっている。

②	A26 子ども一人ひとりの居場所が確保され、安全、安心を感じる場所となるようにしている。	a
	<input type="checkbox"/> 小規模グループでの養育を行う環境づくりに配慮している。	○
	<input type="checkbox"/> リビングや居室は子どもが安心していられる場所になるような配慮がされている。	○
	<input type="checkbox"/> 中学生以上は個室が望ましいが、相部屋であっても個人の空間を確保している。	○
	<input type="checkbox"/> 年少児の居室は、職員の目の届きやすいところに配置している。	○

A26

【コメント】

施設内は死角がないように設計されており、職員が目が届きやすいようになっている。中高生はプライベートの空間を確保するため、個室を使用している。個々に学習机があり、集中して勉強ができるように配慮している。リビングにはソファが置かれ、職員や子ども同士とのコミュニケーションの場となっている。年少児童寮の居室の横にはスタッフルームがあり、すぐに居室につながるようになっており、夜間子どもたちが起きた時にも迅速な対応ができるようになっている。

(5) 健康と安全

①	A27 発達段階に応じ、身体の健康（清潔、病気、事故等）について自己管理ができるよう支援している。	a
	<input type="checkbox"/> 常に良好な健康状態を保持できるよう、睡眠、食事摂取、排泄、生理等の状況を職員がきちんと把握している。	○
	<input type="checkbox"/> 手洗いやうがいの習慣が身に付くよう支援している。年少児については排泄後の始末や入浴の介助をしている。	○
	<input type="checkbox"/> 洗面、整髪、ひげそり、歯磨き、つめ切り、耳そうじ等身だしなみについて、発達に応じて自ら行えるよう支援している。また必要に応じて入浴やシャワーが利用できるなどの配慮がされている。	○
	<input type="checkbox"/> 定期的に理美容をしている。	○
	<input type="checkbox"/> 寝具の日光消毒や衣類などを清潔に保つなど、衛生管理ができるよう支援している。また夜尿のある子どもについては、子どもの自尊心に配慮しながら支援している。	○
	<input type="checkbox"/> 施設内外における危険箇所等を把握し、子どもの発達段階に応じて、危険物の取扱いや危険な物・場所・行為から身を守るための支援を行っている。	○
	<input type="checkbox"/> 子どもの交通事故を防止するため、交通ルール等について日頃から子どもに教えている。	○

A27

【コメント】

担当職員は日常生活の中で常に子どもたちの体調や様子を気にかけ、変化が生じているときには迅速に対応している。年少児には手洗いやうがいの習慣が身に付くよう、声掛けや貼り紙をして支援している。子どもの発達状態に合わせ、適宜トイレトレーニングを行い、夜間は紙パンツを使用しながら支援している。また、子どもの担当は同性の職員が担当し、女子の性教育では、いつでも相談できるように話し合っている。生理を迎えた時には担当職員が必ず対応し、皆でお赤飯を炊いてお祝いをするとはしていないが、担当職員がお赤飯のおにぎりをプレゼントしたりしている。年少児童寮の子どもは、職員と一緒に入浴し、身体の洗い方や湯船でのマナーなどを教えている。

②	A28 医療機関と連携して一人ひとりの子どもに対する心身の健康を管理するとともに、必要がある場合は適切に対応している。	a
	<input type="checkbox"/> 子どもの平常の健康状態や発育・発達状態を把握し、定期的に子どもの健康管理に努めている。	○
	<input type="checkbox"/> あらかじめ関係機関の協力が得られるよう体制整備をしている。	○
	<input type="checkbox"/> 健康上特別な配慮を要する子どもについては、医療機関と連携して、日頃から注意深く観察し、対応している。	○
	<input type="checkbox"/> 受診や服薬が必要な場合、子どもがその必要性を理解できるよう、説明している。服薬管理の必要な子どもについては、医療機関と連携しながら服薬や薬歴のチェックを行っている。	○
	<input type="checkbox"/> 職員間で医療や健康に関して学習する機会を設け、知識を深める努力をしている。	○

A28

【コメント】

一人ひとりの通院記録や予防接種の記録、健康管理ファイルを作成している。年に1回嘱託医による健康診断があり、健康相談にもものってもらっている。また、必要に応じて、小児療育センターや市大病院などに職員が付き添い、通院している。施設の近くには、すぐに受診できる病院もあり、子どもたちの怪我や病気にすぐに対応できるよう連携している。施設の正面玄関には、AEDを設置し、緊急時や必要な時に使用できるようにしている。AEDの研修も行っている。

(6) 性に関する教育

①	A29 子どもの年齢・発達段階に応じて、他者の性を尊重する心を育てるよう、性についての正しい知識を得る機会を設けている。	a	A29
	<input type="checkbox"/> 他者の性を尊重し、年齢相応で健全な他者とのつき合いができるよう配慮している。	<input type="radio"/>	
	<input type="checkbox"/> 性をタブー視せず、子どもの疑問や不安に答えている。	<input type="radio"/>	
	<input type="checkbox"/> 性についての正しい知識、関心が持てるよう、年齢、発達段階に応じたカリキュラムを用意し、支援している。	<input type="radio"/>	
	<input type="checkbox"/> 必要に応じて外部講師を招く等して、性教育のあり方について学習会などを職員や子どもに対して実施している。	<input type="radio"/>	

【コメント】

性教育委員会があり、小学生低学年（年3回）、高校生全体（年1回）に、性教育学習会を行い、意見交換の場としている。また、担当職員が中心となって、年齢、発達に応じた性教育を行っている。普段のかかわりの中で、自然体で話し合えることが重要であると考えている。

(7) 自己領域の確保

①	A30 でき得る限り他児との共有の物をなくし、個人所有とするようにしている。	a	A30
	<input type="checkbox"/> 子どもが小さい頃から、自他の境界線がわかるような支援方法を心がけている。	<input type="radio"/>	
	<input type="checkbox"/> 身につけるもの、日常的に使用するもの、日用品などは、個人所有としている。	<input type="radio"/>	
	<input type="checkbox"/> 個人の所有物が保管できるよう個々にロッカー、タンス等を整備している。	<input type="radio"/>	
	<input type="checkbox"/> 紛失防止のためにも、個々の子どもたちに片付け方を教えている。	<input type="radio"/>	
	<input type="checkbox"/> 個人所有の物は、でき得る限り子どもの好みを尊重している。	<input type="radio"/>	
	<input type="checkbox"/> まだ字が読めない子どもに対しては、イラストマークを使用するなどして、所有物がわかる工夫をしている。記名やマークは、でき得る限り子どもからの許可を得、子どもが恥ずかしがらなくても済むような場所に留める。	<input type="radio"/>	

【コメント】

子どもたちの持ち物は個人所有として、基本的には自室に保管している。電子機器やゲーム類は、時間を決めて使い、職員が預かり管理している。年少児童寮では、個人所有のおもちゃを収納するおもちゃ箱があり、自分のものと分かるように、おもちゃ箱に写真と名前を付け、自分で片付けができるように支援している。

②	A31 成長の記録（アルバム等）が整理され、成長の過程を振り返ることができるようにしている。	a	A31
	<input type="checkbox"/> 子ども一人ひとりに成長の記録（アルバム等）が用意され、空白が生じないように写真等の記録の収集、整理に努めている。	<input type="radio"/>	
	<input type="checkbox"/> 成長の過程を必要に応じて職員と一緒に振り返ることができ、子どもの生い立ちの整理につながっている。	<input type="radio"/>	
	<input type="checkbox"/> 可能な子どもとは共に、成長の記録（アルバム等）を整理している。	<input type="radio"/>	
	<input type="checkbox"/> アルバム等は年齢や状況に応じて個人が保管し、子どもがいつでも見ることができる。	<input type="radio"/>	
	<input type="checkbox"/> 子どもが施設を退所する時に、成長記録（アルバム等）が手渡されている。	<input type="radio"/>	

【コメント】

子どもたち一人ひとりにアルバムを用意し、いつでも見られるようにしている。乳児院から措置変更された子どもは、乳児院から引き継がれたアルバムを所持している。卒園時には一人ひとりにアルバムを手渡している。施設全体としても、各行事の写真やビデオを年度ごとに整理し、保管している。

(8) 行動上の問題及び問題状況への対応

①	A32 子どもの暴力・不適応行動などの行動上の問題に対して、適切に対応している。	a	A32
	<input type="checkbox"/> 施設が、行動上の問題があった子どもにとっての癒しの場になるよう配慮している。また、周囲の子どもの安全を図る配慮がなされている。	<input type="checkbox"/>	
	<input type="checkbox"/> 施設の日々の生活が持続的に安定したものとなっていることは、子どもの行動上の問題の軽減に寄与している。また子どもの行動上の問題が起きた時も、その都度、問題の影響を施設全体で立て直そうと努力している。	<input type="checkbox"/>	
	<input type="checkbox"/> 不適切な行動を問題とし、人格を否定しないことに配慮をしている。職員の研修等を行い、行動上の問題に対して適切な援助技術を習得できるようにしている。暴力を受けた職員へ無力感等への配慮も行っている。	<input type="checkbox"/>	
	<input type="checkbox"/> くり返し児童相談所、専門医療機関、警察等と協議を重ね、事態改善の方策を見つけ出そうと努力している。	<input type="checkbox"/>	

【コメント】

担当職員が中心になり、一人ひとりの子どもの問題に向き合っている。また、複数指導体制においてチームで支援をすることで、より良いアドバイスやフォローを同じチームの職員から受けることができ、担当職員が孤立しないよう連携を図っている。基本的に施設内で対応を協議するが、他児童に対して大きな影響を及ぼす場合や職員の力量を超えてしまう場合には、児童相談所と協議をし、一時保護や措置変更の対応となる場合もある。児童相談所以外にも警察や学校、医療機関などと連携し適切な支援につなげている。

②	A33 施設内の子ども間の暴力、いじめ、差別などが生じないよう施設全体で取り組んでいる。	a	A33
	<input type="checkbox"/> 人権に対する子どもの意識を育むよう支援をしている。日頃から他人に対する配慮の気持ちや接し方を職員が模範となって示し、子どもへ説明をしている。	<input type="checkbox"/>	
	<input type="checkbox"/> 問題の発生予防のために、施設内の構造、職員の配置や勤務形態のあり方についても点検を行っている。	<input type="checkbox"/>	
	<input type="checkbox"/> 生活グループの構成には、子ども同士の関係性、年齢、障害などへの配慮の必要性等に配慮している。	<input type="checkbox"/>	
	<input type="checkbox"/> 課題を持った子ども、入所間もない子どもの場合は特別な配慮が必要となることから、児童相談所と連携して個別援助を行っている。	<input type="checkbox"/>	
	<input type="checkbox"/> 大人(職員)相互の信頼関係が保たれ、子どもがそれを感じ取れるようになっている。子ども間での暴力やいじめが発覚した場合には、施設長が中心になり、全職員が一丸となって適切な対応ができるような体制になっている。	<input type="checkbox"/>	

【コメント】

他人への配慮や人権に対する意識を、子どもたちに日常生活の中で伝えていく努力をしている。子どもたちの間で、小さい喧嘩はよくあるが、職員が話をよく聞くようにしている。優しさや思いやりの心を持って、他人に迷惑をかけないように生活することが大切と考え、個別の外出や年齢ごとに行う全大会、施設内の行事など、いろいろな場面で子どもたちが考える機会を作っている。担当職員との信頼関係が構築され、子どもが何でも相談しやすい環境になっている。複数指導体制のもと、チームとして施設全体で情報共有し、適切な支援につなげている。

③	A34 虐待を受けた子ども等、保護者等からの強引な引取りの可能性がある場合、子どもの安全が確保されるよう努めている。	a	A34
	<input type="checkbox"/> 強引な引取りのための対応について職員に周知徹底している。	<input type="checkbox"/>	
	<input type="checkbox"/> 引取りの可否等について、児童相談所との連絡を適宜行い、判断が不統一にならないようにしている。	<input type="checkbox"/>	
	<input type="checkbox"/> 緊急時には協力を依頼できるよう、警察との連携を図っている。	<input type="checkbox"/>	
	<input type="checkbox"/> 強引な引取りが考えられる場合、他の子どもへの安全についても配慮がされている。	<input type="checkbox"/>	

【コメント】

地域の警察署と連携し、情報や課題の共有を行っている。入所時カンファレンスにおいて、その子どもの生活状況を確認し、施設において安全に日常生活を送ることができるか、児童相談所と話し合い確認している。小学生の登校時には、必ず職員が引率し、子どもたちの安全を確保している。

(9) 心理的ケア

①	A35 心理的ケアが必要な子どもに対して心理的な支援を行っている。	b	A35
	<input type="checkbox"/> 心理的な支援を必要とする子どもについては、自立支援計画に基づき心理支援プログラムが策定されている。	<input type="checkbox"/>	
	<input type="checkbox"/> 施設における職員間の連携が強化されるなど、心理的支援が施設全体の中で有効に組み込まれている。	<input type="checkbox"/>	
	<input type="checkbox"/> 心理的なケアが必要な子どもへの対応に関する職員研修やスーパービジョンが行われている。	<input type="checkbox"/>	
	<input type="checkbox"/> 必要に応じて心理の専門家から直接的支援を受ける体制が整っている。	<input type="checkbox"/>	
	<input type="checkbox"/> 心理的支援を行うことができる有資格者を配置し、心理療法室を設置している。		
	<input type="checkbox"/> 児童相談所と連携し、対象となる子どもの保護者等へ定期的な助言・援助を行っている。	<input type="checkbox"/>	

【コメント】

現在、心理職員は求人中である。心理的な支援を必要とする子どもには、児童相談所の心理士と連携を図り、必要に応じて心理的ケアを実施している。定期的に心理再判定が行われ、子どもたちの心身の状況を施設全体で把握している。こどもの権利擁護委員会の一人でもある児童精神科医に、対応が難しい子どもとの面接や職員へのアドバイスをもらっている。

(10) 学習・進学支援、進路支援等

①	A36 学習環境の整備を行い、学力等に応じた学習支援を行っている。	a	A36
	<input type="checkbox"/> 静かに落ち着いて勉強できるように個別スペースや学習室を用意するなど、学習のための環境づくりの配慮をし、学習習慣が身につくよう援助している。	<input type="checkbox"/>	
	<input type="checkbox"/> 学校教師と十分な連携をとり、常に子ども個々の学力を把握し、学力に応じた個別的な学習支援を行っている。一人ひとりの必要に応じて、学習ボランティアや家庭教師、地域の学習塾等を活用する機会を提供している。	<input type="checkbox"/>	
	<input type="checkbox"/> 学力が低い子どもについては、基礎学力の回復に努める支援をしている。	<input type="checkbox"/>	
	<input type="checkbox"/> 忘れ物や宿題の未提出について把握し、子どもに応じた支援をしている。	<input type="checkbox"/>	
	<input type="checkbox"/> 障害を持つ子どものために、通級による指導や特別支援学級、特別支援学校等への通学を支援している。	<input type="checkbox"/>	

【コメント】

子どもたちの居室には、それぞれ学習机があり、落ち着いて勉強できる環境を整えている。「働ける大人になる」「貧困の連鎖を断ち切る」ことを目標に学習が大切であると考え、基礎学力向上のため小学生は公文を行っている。夜の時間には、一部の小中学生が国語の公文を行っている。中高生は塾に通っている子どももいる。その他に英会話を週に1回行っている。それ以外にも、担当職員が中心となって学習指導を行っている。高校生からは自主学習に任せているが、赤点を取ってしまったら、進級が危なくなった時には、学習時間を設けたり、担当職員が課題を手伝うこともある。

②	A37 「最善の利益」にかなった進路の自己決定ができるよう支援している。	a	A37
	<input type="checkbox"/> 早い時期から進路について自己決定ができるよう進路選択に必要な資料を収集し、子どもに判断材料を提供し、子どもと十分に話し合っている。	<input type="checkbox"/>	
	<input type="checkbox"/> 進路選択に当たって、親、学校、児童相談所の意見を十分聞き、自立支援計画に載せ、各機関と連携し支援をしている。	<input type="checkbox"/>	
	<input type="checkbox"/> 奨学金など進路決定のための経済的な援助の仕組みについての情報等も提供している。	<input type="checkbox"/>	
	<input type="checkbox"/> 進路決定後のフォローアップや失敗した場合に対応する体制ができており、対応している。	<input type="checkbox"/>	
	<input type="checkbox"/> 中卒児・高校中退児に対して、就労させながら施設入所を継続することで十分な社会経験を積めるよう支援している。	<input type="checkbox"/>	
	<input type="checkbox"/> 高校卒業後も進学を希望する子どものために、資金面、生活面、精神的面など、進学の実現に向けて努力をしている。	<input type="checkbox"/>	

【コメント】
 担当職員は日常生活の中で、子どもたちと将来について話をしたり、本人の意向や希望を確認している。子どもたちの視野を広げられるようにできるだけ多くの情報を提供し、自分の意思で進路を決定できるように支援している。奨学金制度の仕組みや施設独自の奨学金、自立するまでの費用のことなどを話し合っている。現在中卒児、高校中退児はいない。20歳になるまではアフターケアが必要な期間と原則的に定めている。在園時の担当職員が、意識的に半年に1回以上の頻度で卒園者と会って、状況を把握し、相談を受けることができるようにしている。

③	A38 職場実習や職場体験、アルバイト等の機会を通して、社会経験の拡大に取り組んでいる。	a	A38
	<input type="checkbox"/> 実習を通して、社会の仕組みやルールなど、自分の行為に対する責任について話あっている。	○	
	<input type="checkbox"/> 実習を通して、金銭管理や生活スキル、メンタル面の支援など、子どもの自立支援に取り組んでいる。	○	
	<input type="checkbox"/> 実習先や体験先の開拓を積極的に行っている。	○	
	<input type="checkbox"/> 職場実習の効果を高めるため、協力事業主等と連携している。	○	
	<input type="checkbox"/> アルバイトや、各種の資格取得を積極的に奨励している。	○	

【コメント】
 高校生には積極的にアルバイトを勧めている。将来に向けての貯蓄や就労体験、社会経験、コミュニケーションなど、様々な人間関係を学ぶ良い機会としている。工業系の高校に進学する子どもには、職場体験をする機会が多く学びの場となっている。高齢者施設やデイサービス等でボランティア活動を行い、その活動を通じて高齢者福祉に興味を持ち就職につながったこともある。今後も必要に応じて民間団体と協力して、職場体験の機会を設けていくこととしている。

(11) 施設と家族との信頼関係づくり

①	A39 施設は家族との信頼関係づくりに取り組み、家族からの相談に応じる体制を確立している。	a	A39
	<input type="checkbox"/> 施設の相談窓口および支援方針について家族に説明し、家族と施設、児童相談所が子どもの成長をともに考えることを伝え、家族と信頼関係を構築できるよう図っている。	○	
	<input type="checkbox"/> 家庭支援専門相談員の役割を明確にし、施設全体で家族関係調整、相談に取り組んでいる。	○	
	<input type="checkbox"/> 面会、外出、一時帰宅などを取り入れ子どもと家族の継続的な関係づくりに積極的に取り組んでいる。	○	
	<input type="checkbox"/> 外出、一時帰宅後の子どもの様子を注意深く観察し、不適切なかかわりの発見に努め、さらに保護者等による「不当に妨げる行為」に対して適切な対応を行っている。	○	
	<input type="checkbox"/> 子どもに関係する学校、地域、施設等の行事予定や情報を家族に随時知らせ、必要に応じて保護者等にも行事への参加や協力を得ている。	○	

【コメント】
 家族には様々な事情があるため、家族との信頼関係づくりは、児童相談所と共通認識をもって役割分担をして行っている。年に1回保護者会を行い、ビデオを上映して日頃の子ども様子を見てもらったり、夕食を食べながら保護者と懇談している。親元等へ外泊できる子どもには、原則月1回の帰省を実施している。長期休みには長期間の帰省を実施している。時間の経過とともに、保護者や子どもの置かれている状況も変化するため、本人や保護者の意向を最大限に尊重し、自立支援計画を見直している。

(12) 親子関係の再構築支援

①	A40 親子関係の再構築等のために家族への支援に積極的に取り組んでいる。	a	A40
	<input type="checkbox"/> 家庭支援専門相談員を中心に、ケースの見立て、現実的な取組を可能とする改善ポイントの絞り込みを行うなど、再構築のための支援方針が明確にされ施設全体で共有されている。	○	
	<input type="checkbox"/> 面会、外出、一時帰宅、あるいは家庭訪問、施設における親子生活訓練室の活用や家族療法事業の実施などを通して、家族との関係の継続、修復、養育力の向上などに取り組んでいる。	○	
	<input type="checkbox"/> 児童相談所等の関係機関と密接に協議し連携を図って家族支援の取組を行っている。	○	

【コメント】
 家族再統合に対する取り組みは、児童相談所と連携して行っている。児童相談所の家族再統合プログラムとして、施設内にあるファミリールームを活用して、親子関係を再構築する場としている。それぞれの子ども家庭環境調整については、個別の担当職員が中心になり、周りの職員のサポートを受けながら行っている。子どもにとって家族との関係を整理するために、帰省などをして直接関わりを持ち、子ども自身が考えることができるように支援している。

(13) スーパービジョン体制

①	A41 スーパービジョンの体制を確立し、職員の専門性や施設の組織力の向上に取り組んでいる。	a	A41
---	---	---	-----

<input type="checkbox"/> スーパーバイザーを配置し、いつでも相談できる体制を確立している。	<input type="radio"/>
<input type="checkbox"/> 職員に対するスーパービジョンを定例的に行い、職員がひとりで問題を抱え込まないように、スーパーバイザーなどを通じて、組織としての働きかけをしている。	<input type="radio"/>
<input type="checkbox"/> スーパーバイザー以外にも職員相互が評価し、助言し合うことを通じて、職員一人ひとりが支援技術を向上させ、施設全体の支援の質を向上させるような取組をしている。	<input type="radio"/>
<input type="checkbox"/> スーパーバイザーは、職員からの信頼が得られるよう、研修に参加するなど質の向上に努めている。	<input type="radio"/>
<input type="checkbox"/> 国が定める基幹的職員を設置している。	<input type="radio"/>

【コメント】

ベテラン職員やリーダーが中心となり、職員会議や学習会、朝の打ち合わせなどで、職員間の意見交換が円滑にできるよう努めている。ベテランの職員が、施設全体のスーパーバイザーの役割を担っている。スーパーバイザーは、職員が孤立しないように見守り、職員一人ひとりが成長できるよう教育、指導を行っている。園内研修や外部研修、他施設との職員交流研修、合同研修などを活発に行い、職員全体の質の向上につなげている。これまで築きあげてきた日本水上学園の取り組みを維持しながら、さらに新しいアイデアを出し、組織力の向上に向けた取り組みを展開している。